

埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書 第3集

# 前中西遺跡 XI

2016

埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会

埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会埋蔵文化財報告書 第3集

まえ なか にし い せき  
前 中 西 遺 跡 XI

2016

埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会

## 序

平成 17 年 10 月 1 日、熊谷市、大里町、妻沼町の一市二町が、さらに平成 19 年 2 月 13 日、江南町と合併して、新『熊谷市』が誕生いたしました。

新『熊谷市』は、南北約 20 km、東西約 14 km にわたり、面積は 159.88 km<sup>2</sup>、人口は 20 万人を越えることとなり、県北最大の都市として生まれ変わりました。新市は、関東平野を縦横に流れる荒川と利根川の 2 大河川が最も近接する流域に位置し、平坦な地形に肥沃な大地と豊かな自然が広がっております。

こうした自然環境のもと、新市内には先人たちによって多くの文化財が営々と築かれてきました。これらの文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証であるとともに、私たちの子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代へと伝え、さらに豊かな熊谷市形成のための礎としていかなければならないと考えております。

本書は、熊谷市前中西遺跡調査会において平成 26 年に発掘調査を行った前中西遺跡について報告するものであります。本遺跡からは弥生時代から奈良・平安時代の集落が確認され、長期にわたって人々が住み続けたことが判明しています。また、調査地点周辺は区画整理事業に伴う発掘調査が行われており、これらの成果と併せて、本市の歴史的発展を考証する上でも非常に重要なものといえます。本書が埋蔵文化財保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広くご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護法の趣旨を尊重され、ご理解ご協力を賜りました棚澤久美子様並びに地元関係者には厚くお礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

熊谷市前中西遺跡調査会  
会 長 野 原 晃

## 例 言

- 1 埼玉県熊谷市上之字衣川 2571 番 2、2572 番 1、2572 番 2、2572 番 3 の各一部（仮換地：熊谷都市計画事業上之字地区画整理事業 5 1 街区 2 画地、3 画地の各一部）に所在する前中西遺跡（埼玉県遺跡番号 59-092）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は共同住宅建設に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷市前中西遺跡調査会が実施したものである。
- 3 本事業の組織は、第 1 章 3 のとおりである。
- 4 発掘調査期間は次のとおりである。  
前中西遺跡 平成 26 年 4 月 30 日～平成 26 年 7 月 31 日
- 5 発掘調査及び報告書執筆・編集は、熊谷市教育委員会 蔵持俊輔が担当した。
- 6 発掘調査に係る写真撮影及び遺物の写真撮影は、蔵持が行った。
- 7 本書にかかる資料は、熊谷市教育委員会で保管している。
- 8 本書の作成にあたり、下記の方々及び機関などからご教示、ご協力を賜りました。  
(敬称略、五十音順)  
新井 端 金子正之 清水康守 菅谷浩之

# 凡 例

本書における挿図指示は、次のとおりである。

- 1 遺構挿図の縮尺は、次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

遺構の略記号は次のとおりである。

S I : 住居跡 S D : 溝跡 S K : 土坑 P : ピット

調査区全測図… 1 / 100 遺構平面図・断面図… 1 / 60

- 2 遺構挿図中のスクリーントーン等は次のとおりである。

 = 地山

- 3 遺構挿図中、断面に添えてある数値は標高を示している。

- 4 遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。


弥生土器… 1 / 4 石製品… 1 / 4、1 / 8

- 5 遺物実測図の表現方法は、以下のとおりである。

弥生土器：白抜き 須恵器：黒塗り

実測図の中心線は実線で示している。

遺物挿図中のスクリーントーンは赤彩範囲を示す。

 = 赤彩範囲

- 6 遺物拓影図のうち、向かって左に外面、右に内面を示した。

- 7 遺物観察表の表現方法は、以下のとおりである。

法量の単位はcm、gである。( ) が付されるものは推定値、現存値を表す。胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号で、含有量の多い順に示した。

A…白色粒子 B…黒色粒子 C…赤色粒子 D…褐色粒子 E…赤褐色粒子 F…白色針状物質 G…長石 H…石英 I…白雲母 J…黒雲母 K…角閃石 L…片岩 M…砂粒 N…礫

- 8 写真図版の遺構・遺物の縮尺は、すべて任意である。

- 9 土層及び土器の色調は、『新版標準土色帖第14版』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局編集、財団法人日本色彩研究所監修、日本色研事業株式会社発行 1994）を参考にした。

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
I 発掘調査の概要	1
1 調査に至る経過	1
2 発掘調査・報告書作成の経過	1
3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織	2
II 遺跡の立地と環境	3
III 遺跡の概要	
1 調査の方法	9
2 検出された遺構と遺物	9
IV 遺構と遺物	10
1 住居跡	10
2 溝跡	43
3 土坑	47
4 土器棺墓	50
5 ビット	52
6 遺構外出土遺物	53
V 調査のまとめ	56

# 挿 図 目 次

第 1 図 埼玉県の地形図	3
第 2 図 周辺遺跡分布図	4
第 3 図 調査地点位置図 (1)	6
第 4 図 調査地点位置図 (2)	7
第 5 図 調査区全測図	8
第 6 図 第 1 号住居跡	10
第 7 図 第 1 号住居跡出土遺物 1	11
第 8 図 第 1 号住居跡出土遺物 2	12
第 9 図 第 2 号住居跡	15
第 10 図 第 2 号住居跡出土遺物 1	16
第 11 図 第 2 号住居跡出土遺物 2	17
第 12 図 第 2 号住居跡出土遺物 3	18
第 13 図 第 2 号住居跡出土遺物 4	19
第 14 図 第 3 号住居跡	24
第 15 図 第 3 号住居跡出土遺物 1	25
第 16 図 第 3 号住居跡出土遺物 2	26
第 17 図 第 4 号住居跡	29
第 18 図 第 4 号住居跡出土遺物	30
第 19 図 第 5 号住居跡	33
第 20 図 第 5 号住居跡出土遺物 1	34
第 21 図 第 5 号住居跡出土遺物 2	35
第 22 図 第 6 号住居跡	38
第 23 図 第 6 号住居跡出土遺物 1	39
第 24 図 第 6 号住居跡出土遺物 2	40
第 25 図 第 1～9 号溝跡	44
第 26 図 第 1 号溝跡出土遺物	45
第 27 図 第 1～9 号土坑	47
第 28 図 第 5～8 号土坑出土遺物	49
第 29 図 第 1 号土器棺墓	51
第 30 図 第 1 号土器棺墓出土遺物	51
第 31 図 ビット	52
第 32 図 ビット出土遺物	53
第 33 図 遺構外出土遺物	54
第 34 図 弥生時代遺構分布図	56

## 挿 表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表……………5	第8表	第1号溝跡出土遺物観察表……………45
第2表	第1号住居跡出土遺物観察表……………13	第9表	第5～8号土坑出土遺物観察表……………50
第3表	第2号住居跡出土遺物観察表……………20	第10表	第1号土器棺墓出土遺物観察表……………51
第4表	第3号住居跡出土遺物観察表……………27	第11表	ピット計測表……………53
第5表	第4号住居跡出土遺物観察表……………31	第12表	ピット出土遺物観察表……………53
第6表	第5号住居跡出土遺物観察表……………35	第13表	遺構外出土遺物観察表……………55
第7表	第6号住居跡出土遺物観察表……………41		

## 図 版 目 次

図版1	調査区全景	図版7	第7図1～8・11～43 第8図44～51 第13図94～99
図版2	第1号住居跡 第1号住居跡遺物出土状況1・2 第2号住居跡 第2号住居跡床面検出状況 第2号住居跡遺物出土状況1	図版8	第10図1～11
図版3	第2号住居跡遺物出土状況2～5 第2号住居跡P6遺物出土状況 第2号住居跡内焼夷弾検出状況 第3号住居跡 第3号住居跡遺物出土状況1	図版9	第10図12～17 第11図24～27・29・30・32・35
図版4	第3号住居跡遺物出土状況2 第4号住居跡 第4号住居跡遺物出土状況 第5号住居跡 第5号住居跡遺物出土状況 第6号住居跡 第6号住居跡遺物出土状況	図版10	第11図18～23・28・37・38・40～42・44～58 第12図59～77 第15図1・2・4～6
図版5	第1号溝跡 第2号溝跡 第3・6～9号溝跡 第4・5号溝跡 第1号土坑 第2号土坑 第3号土坑 第4号土坑	図版11	第15図3・7～37 第16図38～48 第18図1～25 第20図2
図版6	第5号土坑 第6号土坑 第7号土坑 第8号土坑遺物出土状況 第1号土器棺墓出土状況1・2 発掘調査状況 調査区水没状況	図版12	第20図1・3・4・6・13～45 第21図46～53 第23図1～3
		図版13	第23図4～8・14～46 第24図47～69 第26図3～18
		図版14	第26図1・2 第30図1・2 第34図8～33 第28図5-1・2・4・5、6-2・3、7-1・3～5、8-1～5、第32図01-1～3、11-1、12-1

# I 発掘調査の概要

## 1 調査に至る経過

平成26年3月25日に、棚澤久美子より上之地内の共同住宅建設に係る埋蔵文化財発掘の届出が提出され、埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて協議があった。予定地は前中西遺跡に該当する。熊谷市教育委員会では平成26年3月25日に所在確認調査を実施したところ、複数の堅穴建物跡・溝跡・土坑等の遺構及び弥生土器等の遺物が検出された。保存策について協議を重ねたが、工事計画の変更は不可能であると判断されたため、記録保存の措置が適当であるとの結論に至った。この結果を踏まえて、平成26年4月4日付け熊教社発第30号にて発掘調査の措置が適当である旨副申し、埼玉県教育委員会教育長あてに埋蔵文化財発掘の届出を送付した。その後、事業者あてに埼玉県教育委員会教育長から、平成26年5月10日付け教生文第4-87号にて周知の埋蔵文化財保護地における土木工事等についての通知がなされ、発掘調査の指示がなされた。

事業主と具体的な協議を重ねたところ、早急に建設を開始したい意向があったが、調査実施には定例会議での補正予算の承認が必要であり、待機期間が発生する状況であった。そのため、熊谷市教育委員会では早急に発掘調査を実施するため、平成26年4月10日付けで埋蔵文化財に関する協定を事業主と締結したうえで、平成26年4月15日に熊谷市前中西遺跡調査会を設立し、発掘調査を平成26年4月30日から実施した。熊谷市前中西遺跡調査会会長は、文化財保護法第92条第1項の規定に基づく発掘調査の届出を平成26年4月17日付け熊前中遺発第3号で埼玉県教育委員会教育長へ提出した。これに対し、平成26年5月10日付け教生文第2-5号で発掘調査について通知があった。

## 2 発掘調査・報告書作成の経過

### (1) 発掘調査

発掘調査は、平成26年4月30日から平成26年7月31日にかけて実施した。調査面積は、共同住宅の建設によって破壊を受ける194.19㎡である。

調査の手順は、重機により遺構確認面まで表土を除去し、その後人力による遺構確認作業を行った。検出した遺構を順次精査し、遺構平面図・断面図を作成し、随時個別の写真撮影を行った。最後に調査区全景の写真撮影を行い7月31日には器材等を撤収して現場における作業を終了した。大雨により調査区が水没するなどの被害があり、湧水が調査期間中に絶えず発生し、調査に少なからず影響があった。

### (2) 整理・報告書作成作業

整理作業は平成27年4月30日から平成28年3月31日にかけて実施した。

まず、遺物の洗浄・注記・接合・復元作業を行った。その後、遺物の分類を行い、実測作業を開始した。また、これらと平行して遺構の図面整理を行った。次に、遺構・遺物のトレース・拓本を採り図版を作成した。そして、遺物の写真撮影、遺構・遺物写真の図版組みを行い、12月に原稿執筆・割付を実施した。翌年1月に報告書の印刷に入り、校正を経て3月31日に本報告書を刊行した。



### 3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

#### 平成 26 年度 発掘調査

主 体 者	熊谷市前中西遺跡調査会	
会 長	野原 晃	(熊谷市教育委員会教育長)
副 会 長	米澤 ひろみ	(熊谷市教育委員会教育次長)
理 事	菅谷 浩之	(熊谷市文化財保護審議会会長)
	小野 美代子	(熊谷市文化財保護審議会委員)
監 事	正田 知久	(熊谷市教育委員会教育総務課長)
事務局 長	岩上 精純	(熊谷市教育委員会社会教育課長)
事務局次長	森田 安彦	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護担当副参事)
事務局員	吉野 健	(熊谷市教育委員会社会教育課副課長兼文化財保護係長)
	杉浦 朗子	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主査)
	松田 哲	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主査)
	小島 洋一	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主査)
	藏持 俊輔	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主任)
	腰塚 博隆	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主任)
	山下 祐樹	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主任)

#### 平成 27 年度 整理調査

主 体 者	熊谷市前中西遺跡調査会	
会 長	野原 晃	(熊谷市教育委員会教育長)
副 会 長	米澤 ひろみ	(熊谷市教育委員会教育次長)
理 事	菅谷 浩之	(熊谷市文化財保護審議会会長)
	小野 美代子	(熊谷市文化財保護審議会委員)
監 事	正田 知久	(熊谷市教育委員会教育総務課長)
事務局 長	山崎 実	(熊谷市教育委員会社会教育課長)
事務局次長	森田 安彦	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護担当副参事)
事務局員	吉野 健	(熊谷市教育委員会社会教育課副課長兼文化財保護係長)
	松田 哲	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主査)
	小島 洋一	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主査)
	藏持 俊輔	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主査)
	金子 正之	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主任)
	腰塚 博隆	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主任)
	山下 祐樹	(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主任)

## II 遺跡の立地と環境

熊谷市は埼玉県北部に位置する。市の南側には荒川、北側には利根川がそれぞれ西から南東方向に向かって流れており、両河川が最も近接する地域にある。地形的には市の西側に榑挽台地、北・東側に妻沼低地、南側は江南台地が広がる（第1図）。

榑挽台地は洪積世に形成された荒川扇状地の左岸一帯の総称で、寄居町の波久礼付近を扇頂として東は熊谷市西部の三ヶ尻付近まで、北東方向へは熊谷市北西部の西別府付近にまで延びている。標高は約36～54 mで妻沼低地に向かって緩やかに下っていく。

榑挽台地の東側には沖積世に荒川の乱流により新たに形成された新荒川扇状地が広がっている。新荒川扇状地は熊谷市の南西に位置する深谷市の菅沼付近を扇頂として妻沼低地へと広がっており、自然堤防や後背湿地が発達している。また、三ヶ尻地区の荒川に面した榑挽台地南東端には丘陵地である観音山（標高81 m、第3紀層の残丘）があり、台地上からの比高差は約25 m、沖積地からの比高差は約35 mである。

今回報告する前中西遺跡は新荒川扇状地扇端部の自然堤防上に立地し、標高は24 m前後である。前中西遺跡は弥生時代から近世までの複合遺跡であり、上之土地区画整理事業によって発掘調査が進行し、各時代で成果が挙がり、その概要が明らかになりつつある。

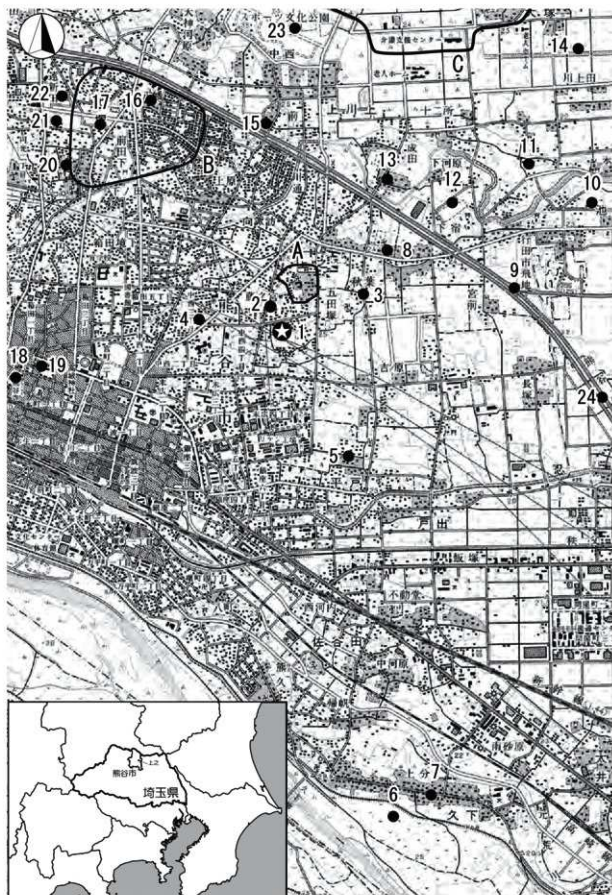
次に本遺跡周辺の歴史的環境を概観する。

本遺跡周辺では縄文時代後期より遺跡が確認される。諏訪木遺跡北部及び箱田氏館跡からは、加曽利B式期以降の遺物がみられ、集落の所在が確認された。山形系統やミズク等の土偶が出土し、晩期まで継続する様相がみられる。それ以前の時代の遺跡は、台地上や台地縁部の低地に所在が集中している。

本遺跡周辺は縄文時代晩期以降、痕跡が途絶えるが、弥生時代前期末から中期前半頃は藤之宮遺跡にて若干の遺物が採取されている。確認された遺構としては、再葬墓が顕著であり、横間渠遺跡、飯塚遺跡、飯塚北遺跡等が挙げられるが、台地縁部周辺地に所在が限られている。中期中頃になると新荒川



第1図 埼玉県の地形図（前中西遺跡位置図）



第2図 周辺道跡分布図

扇状地・低地への進出がみられるようになる。池上遺跡からは東日本でも最古段階の環濠集落が検出され、その墓域とみられる小敷田遺跡からは最古段階の方形周溝墓がみられ、進出の本格化が窺える。中期後半になると、前中西遺跡、北島遺跡、そして本遺跡で集落が営まれ、墓域が形成されている。前中西遺跡を中心としたエリアは当該期から後期初頭にかけて東日本でも屈指の遺構が集中する地点といえる。北島遺跡では、大規模な集落が営まれるとともに、墓域が形成されている。また、水田跡とその水路や堰の存在が確認され、本格的な水田経営が行われていたことが判明している。後期初頭以降は藤之宮遺跡で土器片が若干採取される程度で、遺構は確認されていない。

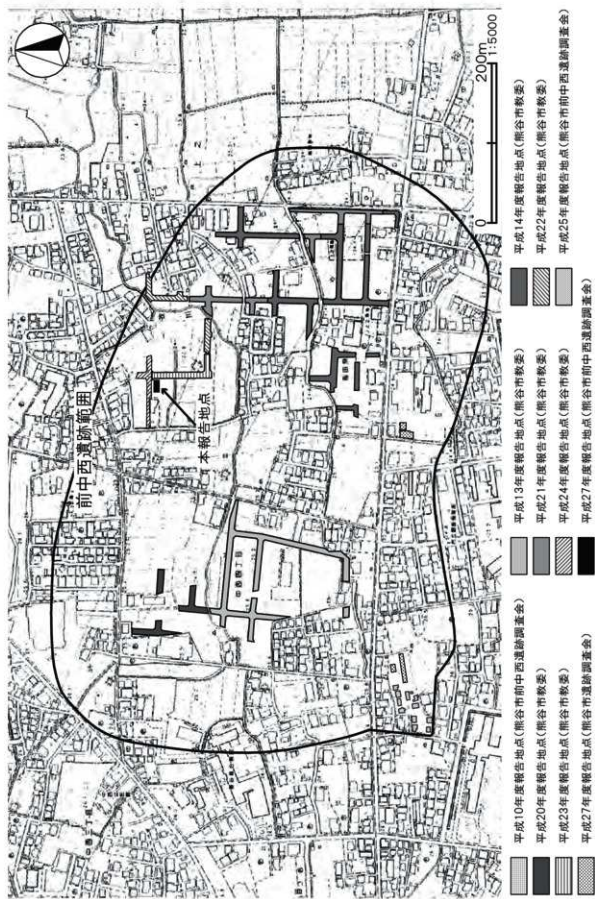
古墳時代前期では、前代に引き続き諏訪木遺跡、前中西遺跡、藤之宮遺跡、北島遺跡で集落跡が確認されたほか、諏訪木遺跡、北島遺跡、中西遺跡では墓域を検出している。箱田氏館跡では、前方後方形周溝墓が検出された。当該期は低地への進出が活発化してきた様相が窺える。中期になると痕跡が希薄になるが、前中西遺跡、藤之宮遺跡、中条遺跡で集落が営まれている。また中条古墳群内の鏡塚古墳、女塚1号墳や奈良古墳群内の横塚山古墳など古墳の築造もみられる。後期に入ると、遺跡数は爆発的な増加がみられ、奈良・平安時代まで継続するものが多い。また、古墳群も群集墳形態のものが各地で築造され、上之古墳群もこの時期に該当する。

律令体制の始まる奈良・平安時代には、本遺跡周辺は武蔵国幡羅郡または埼玉郡のいずれか属していたと想定される。遺跡は古墳時代後期より継続するものが多く、規模も大きくなる。通常の集落と様相を異にするものがあり、諏訪木遺跡の東部では旧河川で水辺の祭祀の痕跡や、四面庇の大型掘立柱建物跡、軸方向の合う掘立柱建物跡群を検出している。池上遺跡では9世紀代の整列した大型掘立柱建物跡が確認されている。最たるものは、北島遺跡で台形状区画や配列された建物跡がみられ、施軸陶器を数多く検出している。集落のほか、生産地として中条条里遺跡等今も地割の痕跡がみられるものがある。

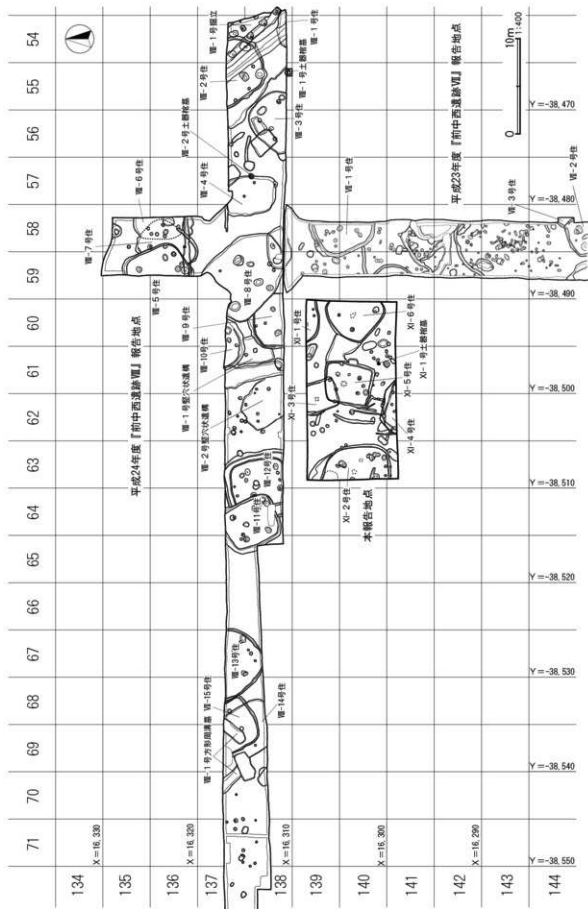
平安時代末から中世にかけて、武士が台頭する時期であり、成田氏館跡は成田助高から親泰までの館跡とされるほか、久下氏館跡、市田氏館跡、河上氏館跡、熊谷氏館跡等多くの館跡がみられる。また下田町遺跡は河川交通の要衝に営まれた宿と考えられている。しかしながら、中世から近世期は依然として資料が不足し不明な点が多いのが実状である。

第1表 周辺遺跡一覧表

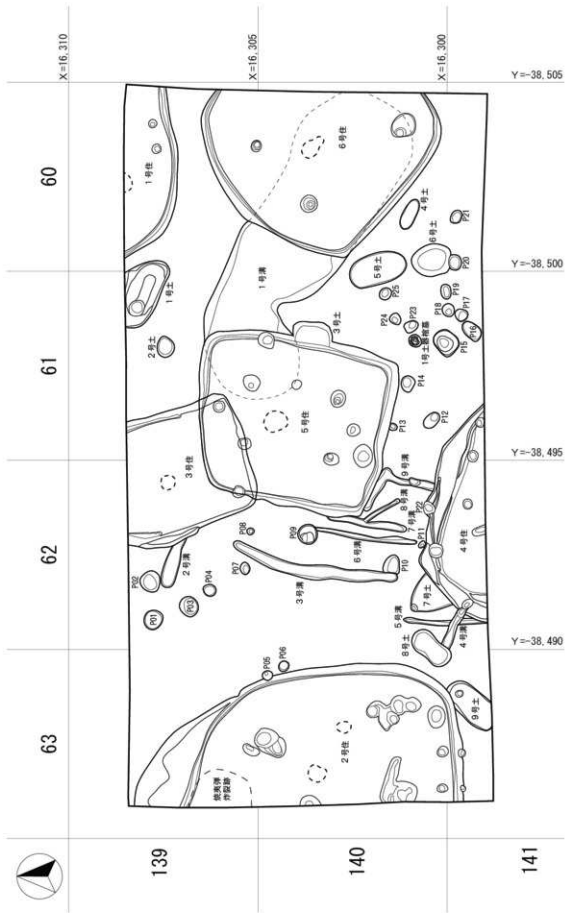
No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	前中西遺跡	弥生中・後古墳奈良・平安中・近世	15	河上氏館跡	中世
2	藤之宮遺跡	弥生中古墳奈良・平安中世	16	八幡山遺跡	古墳
3	諏訪木遺跡	縄文後・晩弥生中・後古墳奈良・平安中・近世	17	出口下遺跡	古墳後
4	箱田氏館跡	縄文後・晩弥生古墳平安末～中世	18	熊谷氏館跡	中世
5	平戸遺跡	弥生中古墳後平安中・近世	19	宮町遺跡	奈良・平安中世
6	久下氏館跡	中世	20	肥塚館跡	中世
7	市田氏館跡	中世	21	出口上遺跡	奈良・平安中・近世
8	成田氏館跡	中世	22	肥塚中島遺跡	奈良・平安近世
9	池上遺跡	弥生中古墳平安	23	北島遺跡	弥生中・後古墳奈良・平安中世
10	古宮遺跡	縄文弥生中古墳前奈良・平安中・近世	24	小敷田遺跡	弥生中古墳前・後奈良・平安
11	上河原遺跡	奈良・平安中・近世	<b>古墳群</b>		
12	宮の裏遺跡	古墳後	A	上之古墳群	古墳後～末
13	成田遺跡	古墳後	B	肥塚古墳群	古墳後～末
14	中条条里遺跡	古墳前・中奈良・平安	C	中条古墳群	古墳中期末～後



第3図 調査地点位置図(1)



第4圖 調査地点位置圖(2)



第5図 調査区全測図

### III 遺跡の概要

#### 1 調査の方法

今回報告するのは、共同住宅建設箇所 194.19 m<sup>2</sup>についてである。

発掘調査は、重機により遺構確認面まで表土剥ぎを行った後、下記グリッドの設定を行った。なお座標は、周辺地における過去の調査事例と整合を容易にする為、日本測地系を用いた基準点測量による。グリッド設定後は、人力により遺構確認のための精査を実施し、検出された各遺構は各々手掘りを行った。遺物は必要に応じて写真撮影・実測後、慎重に取り上げを行った。遺構についても必要に応じて写真撮影した後、実測を行った。そして最後に遺構全体の写真撮影を行い調査を終了した。

本報告で示すグリッドについて、過去刊行された『前中西遺跡Ⅱ』（熊谷市教育委員会 2002）及び『前中西遺跡Ⅲ』（熊谷市教育委員会 2003）において、上之土地区画整理地内全体を一边 5 m とするグリッドが設定されており、これと同じ設定を用いた。今回報告する調査地点のグリッドについて、東西が 60～63、南北が 139～141 である。

#### 2 検出された遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構と遺物は、遺構が住居跡 6 軒、溝跡が 9 条、土坑 9 基、土器棺墓 1 基、ピット 25 基である。出土した遺物は、弥生土器、石器で、1 点のみ須臾器が出土している。遺構は溝跡、土坑、ピットに時期不明なものが多いが、主体となる住居跡、土器棺墓は弥生時代のものである。遺物はほとんどが弥生時代の所産であり、流れ込み等の他時期のものがほぼみられない検出状況である。

住居跡は、弥生時代中期後半が 1 軒、中期後半～末が 5 軒を検出した。規模は 6～7 m 程度のものが大半だが、第 2 号住居跡は 8.6 m を測る大形の住居跡である。形状は隅丸方形を呈するものが大半である。第 2・4 号住居跡では拡張部分が確認され、第 2 号は北側、第 4 号は北・西側でみられた。炉跡は第 4 号住居跡を除く住居跡で確認されたが、いずれも焼化面の確認に留まっている。住居跡内のピットは全ての住居跡で検出された。柱穴とみられるピットを有する住居跡は、第 2・3・5・6 号住居跡である。第 1 号住居跡は北側調査区外に柱穴があるものと考えられる。第 4 号住居跡は判断がつかない。出入口施設の一部とみられるピットは第 1・2 号住居跡で確認された。南壁沿いに平行して設置されている。第 1 号住居跡は堅穴外のピットは検出されなかった。第 2 号住居跡は堅穴内・外に 2 基ずつ、結線延長が長方形となる配置である。溝跡は中央から西側にかけて検出された。大半が時期不明である。第 1 号溝跡のみ不定形で部分的な検出である。その他は第 3・5・6・7 号溝跡がほぼ同じ主軸であり、同時期と推察される。土坑は北西側以外で検出され、分布が偏る傾向がある。土器棺墓はピットが密集する南東側で検出した。弥生土器甕を棺身・棺蓋としており、棺蓋が棺身内に圧潰して落ち込んでいた。棺身内からは他の遺物は確認されなかった。棺身は北島式段階の甕であることから、弥生時代中期後半のものである。ピットは全面的に散見されており、強いてあげるならば土器棺墓のある南東側に密集していることが挙げられるか。

本調査地点は、本調査の内容及び過去の調査結果から、弥生時代中期後半～後期初頭にかけての集落の中心的エリアと推察される。



## IV 遺構と遺物

### 1 住居跡

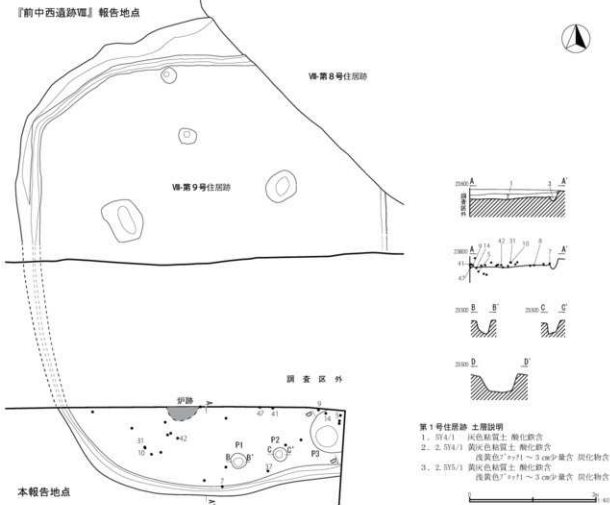
#### 第1号住居跡（第6図）

本遺構は前中西遺跡Ⅶで報告された第9号住居跡と同一である。

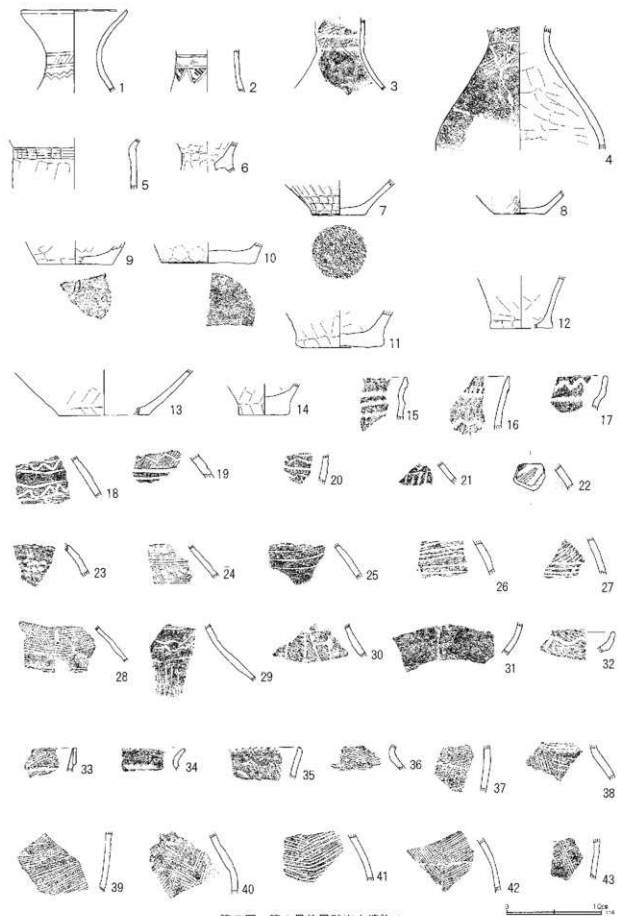
**位置** 検出範囲は60-139グリッドに位置し、遺構全体は59-61-138・139グリッドに位置する。  
**規模** 検出範囲で長軸4.6m、短軸1.4m、確認面からの残存壁高16cmを測る。過去の調査成果と合せると、本来の規模は、長軸7.0m、短軸5.8m、拡張部を含む長軸は7.6mである。平面形は隅丸方形を呈し、主軸の方位はN-2°-Eを示す。

**概要** 北から東側は調査区外である。今回の調査では、ピット3基、炉跡1基、壁周溝を検出した。ピットのうちP1・2は平面形が円形を呈し、直径は25~22cm、深さは21~15cmで、出入り施設の一部の可能性がある。柱穴は確認されなかったが、北側調査区外にあるものと推察される。炉跡は直径42cmの焼土範囲として検出した。壁周溝は、幅23cm、深さ6cmで検出範囲を巡る。過去の調査結果と合せると、設備はピット6基、炉跡1基、北・西・南壁下を巡る壁周溝を有する住居跡とみられる。

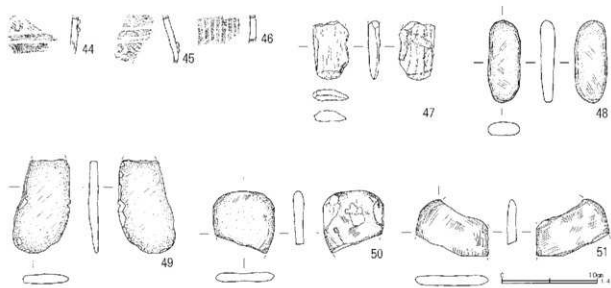
**重複** 今回の調査では重複はみられなかった。



第6図 第1号住居跡



第7圖 第1号住居跡出土遺物 1



第8図 第1号住居跡出土遺物2

遺物（第7・8図、第2表）弥生土器壺、甕、高坏、磨製石斧、磨石等を検出した。

1～4、15～31は壺。1は口縁～頸部までの部位。口縁部は外反して開き頸部がすぼまる。文様は頸部に2条の平行沈線間に縄文が施され、下に山形文が巡る。2は頸部片で直立する形状。文様は2条の平行沈線間に縄文が施され、沈線下にはR L単節縄文が充填される下向きの鋸歯状文が施される。3は頭～肩部までの部位で、頭部はすぼまり、胴部はゆるやかに開く。文様は頸部にL R単節縄文が施され2条の平行沈線が巡る。4は頭～胴中部片で、頭部はすぼまり、胴部は膨らむ。文様は頭～肩上部にL R単節縄文が施される。15～17は口縁～頸部片である。15は口縁部と頸部にR L単節縄文が施される2条の突帯が巡る。16は、口縁部は折り返し口縁で、L R単節縄文が施され半円形の刺突列が巡り、頭部は山形文が巡る。17は壺としたが甕の可能性もある。口縁部に山形文が巡る。18～31は胴部片である。18～20は平行沈線間に山形文が巡る破片。19はL R単節縄文が施される。21は横位の沈線下に縦位の短沈線が列状に巡る。22は外面が赤彩されている。23は楕円形の刺突列が2条巡る。24は5本一単位の櫛歯状工具による平行沈線が複数巡る間を斜位で3個一単位の刺突が一定の間隔を空けて列状に巡る。25～28は横位の平行沈線が施される破片。27は沈線より上にL R単節縄文が施される。28はR L単節縄文を地文とする。29・30は重四角文か、29は横位の沈線下に粗雑な波状文が2条巡り、重四角文が施されている。30は3条の垂線が描かれ、R L単節縄文が垂線間を充填する。31は外面に赤彩がみられる。

5、32～46は甕。5は頭～胴部までの部位で、頭部は4本一単位の櫛歯状工具による簾状文が巡る。32～35は口縁部片。32はR L単節縄文地に山形文が巡る。33は折り返し口縁にL R単節縄文が施される。34は短く外反する形状で無文である。35は直線的に外傾する形状で口端に斜位の刻みが巡る。36・37は櫛歯状工具による振りの小さい波状文が施される破片。38～42は櫛歯状工具による羽状文が施される胴部片である。38・39は粗雑な横位の羽状文か、40～42は縦位の羽状文が施される。43は斜格子文が施される胴部片。44～46はコの字重ね文が施文される破片。44・45はR L単節縄文が施され、ボタン状貼付文が付く。44はボタンの窪みが縦長で、45はボタンの窪みが円形である。

第2表 第1号住居跡出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器 蓋	11.10	08.70	-	AB0K	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	B	口～胴部 80%	内外面磨粒顯著
2	弥生土器 蓋	-	14.50	-	ABF	外面：灰白色 内面：灰白色	B	胴部 20%	内外面磨粒顯著
3	弥生土器 蓋	-	7.70	-	AB0K	外面：反黄褐色 内面：こぶい黄褐色	B	胴部 20%	内外面磨粒顯著 内外面磨粒顯著 内面調整：横位のヘラナガ
4	弥生土器 蓋	-	(13.15)	-	AB0KN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴～胴上部 80%	内外面磨粒顯著 内面調整：横位のヘラナガ 胴部横位のヘラナガ後 外面調整：横位のヘラナガ 外面調整：斜位のヘラナガ後横位のヘラミガキ
5	弥生土器 蓋	-	15.50	-	AB0N	外面：反黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴部 50%	内外面磨粒顯著
6	弥生土器 高坪	-	-	-	AB0JN	外面：棕色 内面：こぶい黄褐色	B	胴下～胴部 25%	内外面磨粒顯著 内面調整：横位のヘラナガ
7	弥生土器 底器	-	03.80	5.80	AB0M0JN	外面：こぶい黄褐色 内面：黒灰色	B	胴下～底器 85%	内外面磨粒顯著 内面調整：横位のヘラナガ
8	弥生土器 底器	-	12.45	15.80	AB0N	外面：赤色 内面：黄灰色	B	底器 50%	内外面磨粒顯著 外面磨粒 外面赤彩有 外面調整：斜位のヘラナガ
9	弥生土器 底器	-	12.90	06.00	AB0N	外面：灰白色 内面：灰白色	B	底器 25%	内外面磨粒顯著 外面調整：横位のヘラナガ
10	弥生土器 底器	-	12.20	10.00	AB0KN	外面：反黄褐色 内面：こぶい黄褐色	B	底器 25%	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラナガ 外面調整：横位のヘラナガ 胴下底器部横位
11	弥生土器 底器	-	13.90	9.30	AB0JN	外面：反黄褐色 内面：黒灰色	B	底器 100%	内外面磨粒顯著 外面調整：横位のヘラナガ後横位のヘラミガキ
12	弥生土器 底器	-	15.60	16.60	AB0JN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴下～底器 25%	内外面磨粒顯著 内面調整：横位のヘラナガ 外面調整：斜位斜位のヘラナガ後横位のヘラミガキ 胴 下底器横位のヘラナガ
13	弥生土器 底器	-	14.70	19.90	AB0N	外面：こぶい黄褐色 内面：黒灰色	B	胴下～底器 20%	内外面磨粒顯著 外面調整：横位のヘラナガ
14	弥生土器 底器	-	13.40	5.80	AB0JN	外面：こぶい褐色 内面：棕色	B	底器 90%	内外面磨粒顯著
15	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0JN	外面：棕色 内面：棕色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著
16	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0J	外面：こぶい褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著
17	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0KN	外面：こぶい黄褐色 内面：こぶい黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著
18	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0N	外面：反黄褐色 内面：黒褐色	A	胴上部片	内面調整：斜位のヘラミ 外面調整：横、斜位のヘラミ 胴上部横位のヘラミガキ
19	弥生土器 蓋	-	-	-	AJK	外面：黒色 内面：黒褐色	A	胴上部片	内面調整：横位のヘラミ 外面調整：横位のヘラミ
20	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0N	外面：こぶい黄褐色 内面：黒灰色	B	胴上部片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラミ
21	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0K	外面：反黄褐色 内面：こぶい黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラミ 外面磨粒顯著
22	弥生土器 蓋	-	-	-	AJK	外面：赤色 内面：黒褐色	B	胴中部片	内外面磨粒著 内外面赤彩有 外面調整：横位のヘラミガキ
23	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0K	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
24	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0J	外面：こぶい黄褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラミ
25	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0IK	外面：黄色 内面：黄灰色	A	胴上部片	内面調整：横位のヘラミ 外面調整：斜位のヘラミ後横位のヘラミガキ
26	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0K	外面：反黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
27	弥生土器 蓋	-	-	-	ABN	外面：黒褐色 内面：黒灰色	B	胴上部片	内外面磨粒著 外面磨粒
28	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0J	外面：こぶい黄褐色 内面：黄灰色	B	胴上部片	内面調整 外面磨粒
29	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0IK	外面：反黄褐色 内面：こぶい黄褐色	B	胴～胴上部片	内外面磨粒顯著
30	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0N	外面：棕色 内面：こぶい黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
31	弥生土器 蓋	-	-	-	AB0N	外面：こぶい黄褐色 内面：こぶい黄褐色	B	胴下部片	内外面磨粒顯著 内面調整：横位のヘラナガ後横位のヘラミガキ 外面赤 彩有 外面磨粒 外面調整：斜位のヘラミガキ
32	弥生土器 甕	-	-	-	AB0N	外面：こぶい黄褐色 内面：こぶい黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著
33	弥生土器 甕	-	-	-	AB	外面：黒褐色 内面：灰白色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著
34	弥生土器 甕	-	-	-	AB	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 外面調整：横位のヘラナガ
35	弥生土器 甕	-	-	-	AB0K	外面：黒褐色 内面：こぶい黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラナガ
36	弥生土器 甕	-	-	-	AB	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴部片	内外面磨粒顯著 内面調整：横位のヘラミガキ
37	弥生土器 甕	-	-	-	AB0	外面：反褐色 内面：黒色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著 外面調整：横位のヘラミ
38	弥生土器 甕	-	-	-	ABN	外面：反黄褐色 内面：浅黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著 外面調整：斜位のヘラミ

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
39	弥生土器 甕	-	-	-	ADK	外面：灰黄褐色 内面：にじい・黄褐色	■	胴上部片	内面磨粒顕著 外面調整：横位のヘラナゲ
40	弥生土器 甕	-	-	-	AIXN	外面：黄褐色 内面：黒色	■	胴上部片	内外面磨粒 内面調整：脚上段斜位のヘラナゲ 下段縦・斜位のヘラミダリ 外面調整：横位のヘラナゲ
41	弥生土器 甕	-	-	-	AIXN	外面：灰黄褐色 内面：にじい・黄褐色	■	胴上部片	内面磨粒顕著 外面調整：横位のヘラナゲ
42	弥生土器 甕	-	-	-	ADLJ	外面：緑黄色 内面：褐色	■	胴上部片	内面磨粒顕著
43	弥生土器 甕	-	-	-	ADLN	外面：黄褐色 内面：灰黄褐色	■	胴中部片	内面磨粒 横位のヘラナゲ 外面調整：横位のヘラナゲ
44	弥生土器 甕	-	-	-	ADHKN	外面：にじい・黄褐色 内面：灰黄褐色	■	胴中部片	内面磨粒顕著 外面磨粒 外面調整：横位のヘラナゲ
45	弥生土器 甕	-	-	-	ADKN	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	■	胴中部片	内外面磨粒顕著
46	弥生土器 甕	-	-	-	ADK	外面：にじい・黄褐色 内面：にじい・黄褐色	■	胴中部片	内外面磨粒顕著
47	磨製石斧	最大長 66.13	最大幅 13.63	最大厚 0.23	重さ 37 g	片端欠損	結晶片割製		
48	磨石	最大長 8.7	最大幅 3.45	最大厚 1.4	重さ 61 g	完形	砂岩製		
49	磨石	最大長 9.91	最大幅 6.0	最大厚 0.0	重さ 64 g	片端欠損	砂岩製		
50	磨石	最大長 66.53	最大幅 66.41	最大厚 0.33	重さ 62 g	片端欠損	砂岩製		
51	磨石	最大長 66.01	最大幅 7.73	最大厚 0.0	重さ 54 g	片端欠損	砂岩製		

6は高坏で、坏底～脚部片である。坏部底面に焼成前穿孔が施される。

7～14は弥生土器の甕または甕の底部片。7・8は外面に赤彩が施される。

47～51は石器。47は結晶片岩製の磨製石斧、48～51は砂岩製で扁平な形状を呈する磨石である。

時期 弥生時代中期後半～末

## 第2号住居跡（第9図）

位置 63-139・141グリッドに位置する。

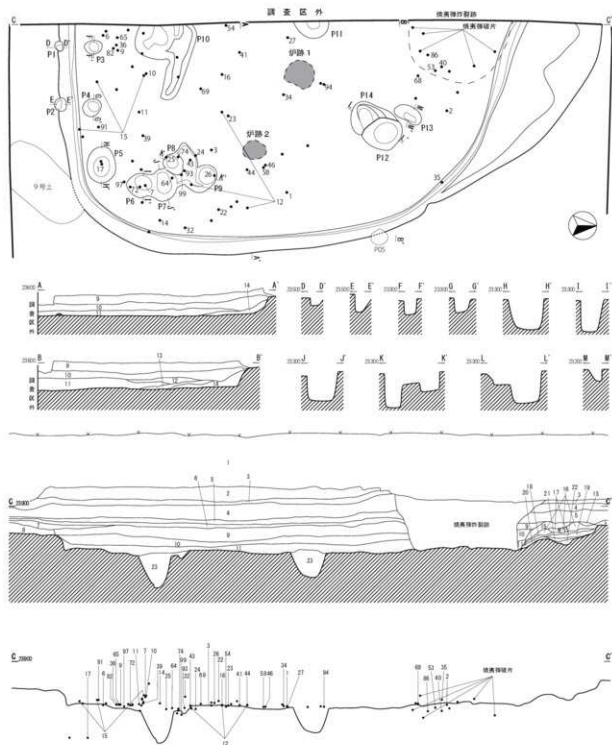
規模 検出範囲で、拡張範囲1.2mを含み長軸は8.6m、短軸は3.7m、確認面からの残存壁高は35cmを測る。拡張範囲の確認面からの残存壁高は18cmを測る。平面形は隅丸方形に北側拡張部が楕円状に膨らむ形状を呈する。主軸の方位はN-4°-Wを示す。

概要 直径8mを超える大型の住居跡である。遺構は全体の半分程度を検出したとみられ、西側が調査区外である。北側に拡張部分のみられ、ピット11基、炉跡2基、壁周溝を検出した。ピットのうち、南側にみられるP1～4は、小型の円形を呈し、長方形に配置が整う。P1・2は堅穴外へ配置されることから、出入口施設の一部の可能性ある。P6からは完形の赤彩された高坏（第10図17）を検出している。炉跡は楕円・不整形形状の焼土範囲として検出し、床面は良く焼けており焼土化している。炉跡1は40cm、炉跡2は37cmを測る。壁周溝は、幅22～7cm、深さ5～2cmと、掘り込みが不整形であるが検出範囲を巡る。遺構内北西側で、爆発し風化した焼夷弾が検出された。太平洋戦争時の熊谷空襲によるものと推察される。地中で炸裂した痕跡のみられ、北側拡張部の土層断面が乱れはその影響による可能性がある。

重複 第9号土坑、P5と重複し、本遺構が古い。

遺物（第10～13図、第3表） 弥生土器壺、甕、高坏、甕、磨石、叩石、石皿等を検出した。

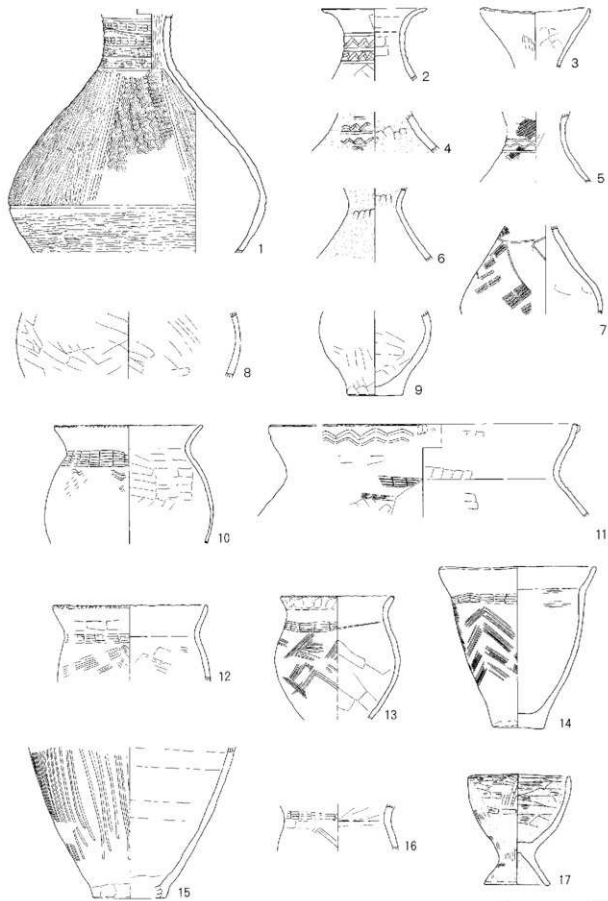
1～9、44～58は弥生土器壺。1は頸～胴下部までの部位。頸部がほぼ直立し、なだらかな肩部以下は無花果状を呈する形状で、最大径は胴中段下である。頸部に5条の平行沈線が巡り、上部3条の沈



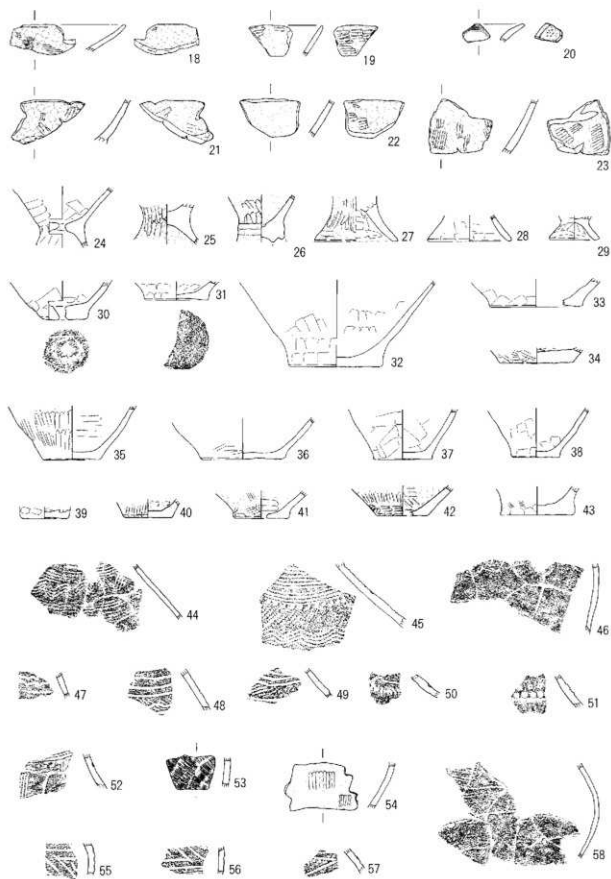
第2号住居跡 土層説明

1. 須土
2. 2.576/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含 白色軽石微量含
3. 2.573/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含
4. 2.574/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含 酸化物少量含
5. 573/1 砂+黄灰色粘土
6. 574/1 灰色土 酸化鉄含
7. 2.573/2 黒褐色粘質土 酸化鉄含
8. 2.576/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含
9. 2.573/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含
10. 574/1 灰色粘質土 酸化鉄含
11. 2.573/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含 炭化物多量含 灰黄色 $r=75$ mm $\sim$ 1cm含
12. 574/1 灰色粘質土 酸化鉄含 灰黄色 $r=75$ mm少量含
13. 2.572/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含 炭化物多量含 灰黄色 $r=75$ mm少量含
14. 1074/1 灰色粘質土 酸化鉄含 炭化物少量含 焼土微量含 灰黄色 $r=72$ mm少量含
15. 2.573/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含 灰黄色 $r=7cm$ 少量含
16. 577/1 灰白色粘質土 酸化鉄含 赤褐色土 粘質 少量混入
17. 2.573/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含
18. 2.573/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含 炭化物微量含 灰白色粘質土少量混入
19. 2.576/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含
20. 2.573/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含 黄灰色粘質土 少量混入
21. 2.573/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含
22. 2.576/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含
23. 2.573/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含

第9図 第2号住居跡

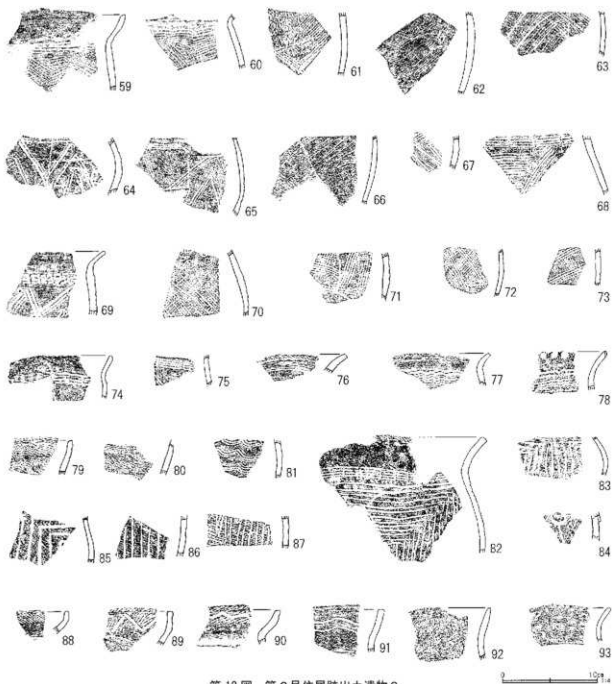


第10图 第2号住居跡出土遺物1



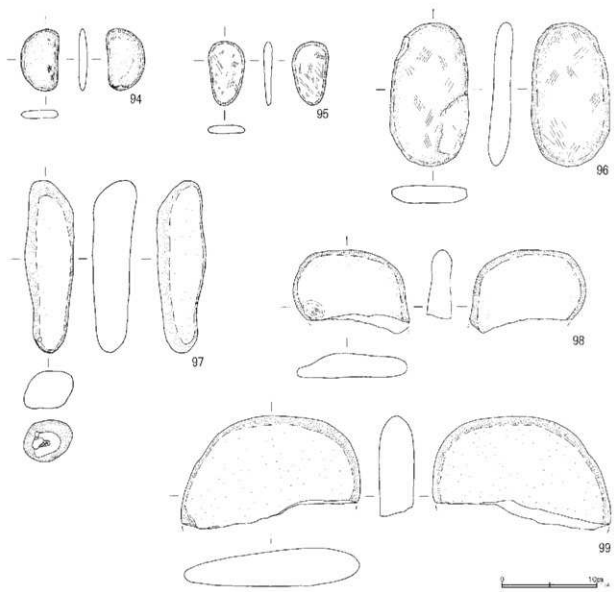
第 11 图 第 2 号住居跡出土遺物 2





第12図 第2号住居跡出土物3

線間は2本一単位の等間隔で短い簾状文が巡る。頭部以下は、肩部からのゆるく「ハ」字に開く垂線と胴部下段の最大径の位置に巡る1条の沈線により文様帯が8つに区画される。主に波状文とミガキの入る無文が交互に施される。文様のある区画内は、縦位で5本一単位の櫛歯状工具による振りの小さい波状文が充填され、向かって左側のみ垂線に並行する押し引き沈線が施される。この押し引き沈線は図化した1区画でのみ確認された。2・3は口縁～頭部までの部位。2は口縁部が大きく外反し、頭部がほぼ直立する形状であるが、頭部は短く肩部へ向かって開く。頭部は3条の沈線が巡り、沈線間に山形文が施される。3は口縁部が外傾して開く形状で口縁上端はゆるく内湾して直立気味となる。4～6は頭～肩部の部位。4・6は内外面が赤彩される。4は肩部に平行沈線が巡り沈線間に山形文が施文される。



第13図 第2号住居跡出土遺物4

5は、頸部はRL単節縄文地に2条の平行沈線が巡り、沈線間をゆるい波状文が巡る。6は無文である。7は肩～胸部までの部位で、無花果状となる形状か。粗雑に文様が施されており、LR単節縄文を地文として、肩部上段に横位の沈線が巡り、沈線下に逆V字状に沈線が施される。摩耗し粗雑なため判断が付かないが、鋸歯状文の可能性ある。8は胸部中段の部位。丸みのある形状で最大径を測る部位である。9は胴～底部までの部位で小振りな大きさである。胴部は球形を呈し、無文である。44～58は肩～胸部までの破片。44・45・47～49は平行沈線や波状文が施される。44は6本1単位の直線文間を4本1単位の波状文が巡る。45は平行沈線下に半円形の刺突列が施され、波状文との間にLR単節縄文が充填される。48は波状文が巡る沈線間に無節R縄文が、49は沈線間にLR単節縄文が施される。46・58は胸部中段下に連弧文が巡る破片。58は連弧文の上に平行沈線が巡る。50は爪形状の刺突列が巡る。51は2列の円形刺突列が巡る。52は横位の平行沈線下に懸垂文が施文され、沈線に沿って円形刺突列が施される。53・54は外面が赤彩された破片。53はRL単節縄文地である。55～57は重三角文とみられる破片。55は無節L縄文が施される。56はLR単節縄文が施される。57は沈線に沿って半

第3表 第2号住居跡出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器 壺	-	(24.30)	-	ADHX	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	B	脛~胴中部 60%	内外面摩耗 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ 脛~胴上半部縦位のヘラミギキ 胴下半部縦位のヘラミギキ
2	弥生土器 壺	(11.20)	(7.75)	-	IK	外面: にぶい褐色 内面: にぶい褐色	B	口~胴部 20%	内外面摩耗著
3	弥生土器 壺	(11.60)	(6.50)	-	ADT	外面: にぶい褐色 内面: 灰黄褐色	B	口縁部 5%	内外面摩耗著 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
4	弥生土器 壺	-	(4.80)	-	ADHXN	外面: にぶい褐色 内面: 灰黄褐色	B	胴部 20%	内外面摩耗著 内外面彫刻有 内面彫刻: 斜位のヘラミギキ
5	弥生土器 壺	-	(7.50)	-	ADN	外面: にぶい褐色 内面: にぶい褐色	B	胴部 40%	内外面摩耗 内面彫刻: 斜位のヘラミギキ 外面彫刻: 斜位のヘラミギキ
6	弥生土器 壺	-	(7.60)	-	ADIK	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	B	脛~胴上部片 10%	内外面摩耗著 内面は彫刻, 外面は全面に赤彩有 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
7	弥生土器 壺	-	(9.80)	-	ADXC1JN	外面: 明赤褐色 内面: にぶい褐色	B	脛~胴上部 70%	内外面摩耗著
8	弥生土器 壺	-	(6.90)	-	ADIK	外面: 黒褐色 内面: 黒色	B	胴中部 4%	内外面摩耗 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 斜位のヘラミギキ
9	弥生土器 壺	-	(8.90)	6.00	ADT	外面: にぶい黄褐色 内面: 黄灰色	B	脛~底部 60%	内外面摩耗 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 脛下部斜位のヘラミギキ
10	弥生土器 甕	(15.65)	(12.55)	-	ADIK	外面: 明赤褐色 内面: 明赤褐色	B	口~胴部 40%	内外面摩耗著
11	弥生土器 甕	(32.00)	(9.90)	-	ADIXN	外面: 褐色 内面: 褐色	B	口縁部 20%	内外面摩耗著 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
12	弥生土器 甕	(16.20)	(8.10)	-	ADIXN	外面: 褐色 内面: にぶい褐色	B	口縁部 7%	内外面摩耗著 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 口縁部縦位のヘラミギキ 胴部斜位のヘラミギキ
13	弥生土器 甕	11.70	(13.10)	-	ADT	外面: 灰黄褐色 内面: にぶい黄褐色	B	口~胴部 40%	内外面摩耗著 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
14	弥生土器 甕	16.60	17.10	5.00	ADIK	外面: 褐色 内面: にぶい褐色	B	ほぼ定形	内外面摩耗 内面彫刻: 口縁~胴部上段横位のヘラミギキ 中段以下横位のヘラミギキ 外面彫刻: 口縁部縦位のヘラミギキ 胴部以下斜位のヘラミギキ
15	弥生土器 甕	-	(16.00)	7.90	ADHXN	外面: 黄灰色 内面: 黄灰色	B	脛~底部 60%	内外面摩耗 内面彫刻: 胴部中段横位のヘラミギキ 下段横位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
16	弥生土器 甕	-	(5.05)	-	ADN	外面: 黒褐色 内面: 黒色	B	脛~胴上部 20%	内外面摩耗著
17	弥生土器 高坪	10.70	11.70	6.90	AD	外面: 赤色 内面: 赤褐色	A	定形	内外面彫刻有 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 底辺は縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 口縁~体部上段横、斜位、体部中段以下縦位のヘラミギキ後縦位のヘラミギキ
18	弥生土器 高坪	-	-	-	IK	外面: 黒褐色 内面: 黒褐色	A	坏部片	内外面彫刻有 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ後斜位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ後縦位のヘラミギキ
19	弥生土器 高坪	-	-	-	ADXC1JN	外面: 明赤褐色 内面: 赤褐色	B	口縁部片	内外面彫刻 内外面彫刻有 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
20	弥生土器 高坪	-	-	-	ADN	外面: 赤褐色 内面: にぶい褐色	B	口縁部片	内外面摩耗 内外面彫刻有 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ
21	弥生土器 高坪	-	-	-	ADIXN	外面: 赤色 内面: 赤色	A	体部片	内外面彫刻有 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦、斜位のヘラミギキ
22	弥生土器 高坪	-	-	-	ADIXN	外面: 褐色 内面: にぶい褐色	B	胴下部片	内外面摩耗著 内外面彫刻有 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ
23	弥生土器 高坪	-	-	-	ADN	外面: 赤色 内面: にぶい赤色	B	胴下部片	内外面摩耗 内外面彫刻有 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
24	弥生土器 高坪	-	(6.50)	-	ADN	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	B	脛下~胴部片	内外面摩耗著
25	弥生土器 高坪	-	(4.20)	-	ADT	外面: 明赤褐色 内面: にぶい褐色	B	接合部 100%	内外面摩耗著 外面(底面含む) 赤彩有 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
26	弥生土器 高坪	-	(4.00)	-	ADIXN	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	B	接合部 100%	内外面摩耗著 内外面彫刻有
27	弥生土器 高坪	-	(4.80)	(6.90)	ADIXN	外面: 灰褐色 内面: 灰黄褐色	B	脚部 25%	内外面摩耗著 外面彫刻 内外面彫刻有 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ
28	弥生土器 高坪	-	(2.80)	(4.50)	ADIK	外面: 黒褐色 内面: 黄灰色	B	脚部片	内外面摩耗 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
29	弥生土器 高坪	-	(2.55)	5.30	ADHXN	外面: 灰黄褐色 内面: にぶい黄褐色	B	脚部 100%	内外面摩耗 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ
30	弥生土器 甕	-	(4.10)	5.10	AD	外面: 灰黄褐色 内面: にぶい黄褐色	B	底部 100%	内外面摩耗 内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 脛~斜位のヘラミギキ
31	弥生土器 甕部	-	(2.00)	(6.60)	ADIXN	外面: 灰黄色 内面: 黄灰色	A	底部 60%	内面彫刻: 縦位のヘラミギキ 外面彫刻: 縦位のヘラミギキ

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
32	弥生土器 底器	-	0.70	9.60	ADHKX	外面：浅黄褐色 内面：オリーブ黒色	B	底器 100%	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面調整：斜・斜位のヘラミヤ
33	弥生土器 底器	-	3.00	10.00	DS	外面：棕色 内面：こぶし・黄褐色	B	底器 15%	内外面磨粒顯著
34	弥生土器 底器	-	1.65	7.70	DK	外面：黒色 内面：黒色	A	底器 100%	内外面磨粒 外面調整：斜位のヘラミヤ
35	弥生土器 底器	-	3.00	6.20	EDXN	外面：灰黄褐色 内面：焼灰色	B	底器 100%	内面磨粒 外面調整：横位のヘラミヤ 外面調整：縦位のヘラミヤ
36	弥生土器 底器	-	4.40	9.20	ADHKX	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	B	底器 70%	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面調整：斜・斜位のヘラミヤ
37	弥生土器 底器	-	3.35	6.20	EDXN	外面：こぶし・褐色 内面：黒褐色	B	底器 95%	内外面磨粒顯著
38	弥生土器 底器	-	3.30	3.10	ADHK	外面：棕色 内面：棕色	C	底器 80%	内外面磨粒顯著
39	弥生土器 底器	-	1.30	5.20	ADCKTN	外面：明赤褐色 内面：焼灰黄褐色	B	底器 100%	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面調整：斜下位縁位・下縁位のヘラミヤ
40	弥生土器 底器	-	2.00	5.20	DEK	外面：赤色 内面：こぶし・黄褐色	B	底器 70%	内外面磨粒顯著 内外面赤色有 外面調整：縦位のヘラミヤ
41	弥生土器 底器	-	2.95	6.00	D	外面：赤色 内面：赤色	A	底器 50%	内外面赤色有 内面調整：横位のヘラミヤ 外面調整：斜・斜位のヘラミヤ
42	弥生土器 底器	-	3.20	3.30	ADCKTN	外面：赤褐色 内面：赤色	B	底器 30%	外面磨粒 内外面赤色有 外面調整：斜下位縁位・下縁位のヘラミヤ 外面調整：斜下位縁位・下縁位・斜位のヘラミヤ
43	弥生土器 底器	-	3.90	7.80	ADHK	外面：こぶし・褐色 内面：明黄褐色	B	底器 90%	内外面磨粒 外面調整：斜・横位のヘラミヤ
44	弥生土器 蓋	-	-	-	DS	外面：こぶし・褐色 内面：こぶし・黄褐色	B	胴上部分	内外面磨粒顯著
45	弥生土器 蓋	-	-	-	DEK	外面：浅黄褐色 内面：黄褐色	B	胴中部分	内外面磨粒顯著
46	弥生土器 蓋	-	-	-	DEI	外面：こぶし・黄褐色 内面：こぶし・黄褐色	B	胴中部分	内外面磨粒顯著 外面調整：横位のヘラミヤ
47	弥生土器 蓋	-	-	-	ADHN	外面：灰黄褐色 内面：こぶし・黄褐色	B	胴上部分	内外面磨粒顯著
48	弥生土器 蓋	-	-	-	ADKN	外面：こぶし・黄褐色 内面：焼灰黄褐色	B	胴上部分	内外面磨粒顯著
49	弥生土器 蓋	-	-	-	ADCKTN	外面：浅黄褐色 内面：棕色	B	胴上部分	内外面磨粒顯著
50	弥生土器 蓋	-	-	-	ADN	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	C	胴上部分	内外面磨粒顯著
51	弥生土器 蓋	-	-	-	ADCKTN	外面：こぶし・黄褐色 内面：浅黄褐色	B	胴上部分	内外面磨粒 外面調整：横位のヘラミヤ 外面調整：横位のヘラミヤ
52	弥生土器 蓋	-	-	-	DEK	外面：灰黄褐色 内面：こぶし・黄褐色	B	胴上部分	内外面磨粒顯著
53	弥生土器 蓋	-	-	-	ADJKN	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	B	胴部分	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面赤色有
54	弥生土器 蓋	-	-	-	ADJ	外面：こぶし・褐色 内面：棕色	B	胴下部分	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面赤色有 外面調整：縦位のヘラミヤ
55	弥生土器 蓋	-	-	-	ADK	外面：こぶし・黄褐色 内面：焼灰色	B	胴上部分	内外面磨粒顯著 外面磨粒
56	弥生土器 蓋	-	-	-	ADHK	外面：灰黄褐色 内面：焼灰黄褐色	B	胴中部分	内外面磨粒顯著 外面磨粒
57	弥生土器 蓋	-	-	-	ADH	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴上部分	内外面磨粒
58	弥生土器 蓋	-	-	-	DEI	外面：こぶし・黄褐色 内面：こぶし・黄褐色	B	胴中部分	内外面磨粒顯著 外面磨粒 外面調整：斜縁位・斜位のヘラミヤ 外面調整：斜下位縁位のヘラミヤ
59	弥生土器 甕	-	-	-	ADKN	外面：棕色 内面：灰黄褐色	A	口縁部分	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面調整：横位のヘラミヤ 外面調整：横位のヘラミヤ
60	弥生土器 甕	-	-	-	DEI	外面：黒褐色 内面：こぶし・黄褐色	B	胴～胴上部分	内面調整：縦位のヘラミヤ 外面調整：斜位のヘラミヤ
61	弥生土器 甕	-	-	-	ADHK	外面：こぶし・黄褐色 内面：浅黄褐色	C	胴中部分	内外面磨粒顯著
62	弥生土器 甕	-	-	-	ADJKN	外面：灰黄褐色 内面：こぶし・黄褐色	B	胴中部分	内外面磨粒
63	弥生土器 甕	-	-	-	ADHK	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	B	胴中部分	内外面磨粒 外面調整：縦位のヘラミヤ
64	弥生土器 甕	-	-	-	ADHN	外面：黒褐色 内面：こぶし・褐色	B	胴上部分	内外面磨粒顯著 外面磨粒 外面調整：横位のヘラミヤ
65	弥生土器 甕	-	-	-	ADHN	外面：黒褐色 内面：焼灰色	B	胴上部分	内面磨粒 外面調整：横位のヘラミヤ 外面調整：斜・斜位のヘラミヤ
66	弥生土器 甕	-	-	-	AD	外面：黒褐色 内面：棕色	B	胴中～下部分	内外面磨粒顯著
67	弥生土器 甕	-	-	-	ADH	外面：焼灰色 内面：こぶし・褐色	B	胴中部分	内外面磨粒
68	弥生土器 甕	-	-	-	AD	外面：灰褐色 内面：灰黄褐色	B	胴～胴上部分	内面磨粒 外面調整：横位のヘラミヤ 外面調整：横位のヘラミヤ

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
69	弥生土器 甕	-	-	-	AKO	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	口縁部片	内面調整：横位のハケメ 外面調整：横位のハケメ
70	弥生土器 甕	-	-	-	ABTKX	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色	B	胴上部分片	内面調整：斜位のハケメ 外面調整：横位のハケメ
71	弥生土器 甕	-	-	-	ABTI	外面：黒褐色 内面：緑色	B	胴部片	内外面磨粒顕著
72	弥生土器 甕	-	-	-	ABOR	外面：黒褐色 内面：こぶし黄褐色	B	胴中部分片	内外面磨粒顕著
73	弥生土器 甕	-	-	-	ABX	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色	A	胴中部分片	内面磨粒 外面調整：横位のヘラナゲ後横位のヘラミガキ
74	弥生土器 甕	-	-	-	ABIK	外面：褐色 内面：こぶし黄褐色	B	口縁部片	内面磨粒 外面磨粒顕著 内面調整：口縁部横位のハケメ
75	弥生土器 甕	-	-	-	IK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴部片	内面磨粒顕著
76	弥生土器 甕	-	-	-	ABIN	外面：灰褐色 内面：浅黄褐色	A	口縁部片	内面調整：横位のヘラナゲ 外面調整：横位のハケメ
77	弥生土器 甕	-	-	-	ABIT	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	口縁部片	内面調整：横位のハケメ後口縁部横位、胴部横位のヘラミガキ 外面調整：口縁部横位のハケメ後横位のヘラミガキ
78	弥生土器 甕	-	-	-	ABIKX	外面：灰褐色 内面：灰褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著
79	弥生土器 甕	-	-	-	IK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内面磨粒 外面調整：横位のヘラナゲ 外面調整：斜位のハケメ
80	弥生土器 甕	-	-	-	ABD	外面：浅黄褐色 内面：灰黄色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著 内面調整：横位のハケメ
81	弥生土器 甕	-	-	-	IK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	胴中部分片	内面磨粒 外面調整：横位のヘラナゲ後横位のヘラミガキ
82	弥生土器 甕	-	-	-	ABIKN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	口～胴上部分片	内面調整：口縁部横位、胴部斜位のハケメ後口縁部横位、胴部横位のハケメ 後口縁部横位のヘラミガキ
83	弥生土器 甕	-	-	-	ABN	外面：こぶし黄褐色 内面：こぶし黄褐色	B	胴上～中部分片	内外面磨粒顕著
84	弥生土器 甕	-	-	-	ABTK	外面：灰黄褐色 内面：黒褐色	B	胴上部分片	内外面磨粒顕著
85	弥生土器 甕	-	-	-	ABCKXN	外面：灰黄褐色 内面：こぶし黄褐色	B	胴上部分片	内外面磨粒顕著
86	弥生土器 甕	-	-	-	BIJ	外面：こぶし黄褐色 内面：こぶし黄褐色	B	胴上部分片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラミガキ 外面調整：横位のヘラナゲ
87	弥生土器 甕	-	-	-	ABJ	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	B	胴中部分片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラナゲ 外面調整：横位のハケメ
88	弥生土器 甕	-	-	-	ABIK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラナゲ 外面調整：横位のヘラナゲ
89	弥生土器 甕	-	-	-	ABIKN	外面：こぶし褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラミガキ
90	弥生土器 甕	-	-	-	ABIN	外面：灰黄褐色 内面：こぶし黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラナゲ 外面調整：横位のヘラナゲ
91	弥生土器 甕	-	-	-	ABXN	外面：こぶし褐色 内面：こぶし褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面調整：横位のハケメ 外面調整：横位のハケメ
92	弥生土器 甕	-	-	-	ABIKN	外面：こぶし黄褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面調整：横位のヘラナゲ 外面調整：横位のハケメ
93	弥生土器 甕	-	-	-	IK	外面：こぶし褐色 内面：黒褐色	A	口縁部片	内外面磨粒 内面調整：横位のハケメ 外面調整：横位のハケメ
94	磨石	最大長 6.5	最大幅 4.1	最大厚 0.9	重さ 25 g	定形 砂岩製			
95	磨石	最大長 6.7	最大幅 3.9	最大厚 0.95	重さ 30 g	定形 砂岩製			
96	磨石	最大長 15.1	最大幅 8.2	最大厚 3.2	重さ 331 g	ほぼ定形 砂岩製			
97	磨石	最大長 18.0	最大幅 5.15	最大厚 4.4	重さ 589 g	定形 砂岩製			
98	石皿	最大長 (16.8)	最大幅 12.1	最大厚 2.6	重さ 395 g	片楕円形 安山岩製			
99	石皿	最大長 (12.0)	最大幅 15.9	最大厚 4.0	重さ 1277 g	片楕円形 閃石岩製			

円形の刺突列が施される。

10～16、59～93は弥生土器甕。10は口縁～胴部までの部位。形状は、頸部で屈曲して、口縁部は外傾して開き、胴部は球形を呈する。最大径は胴部中段で測る。口端に刻みが巡り、口縁部は無文である。頸部に6本一単位の簾状文が巡り下には波状文が僅かにみられる。11は口縁～肩部までの部位。口縁

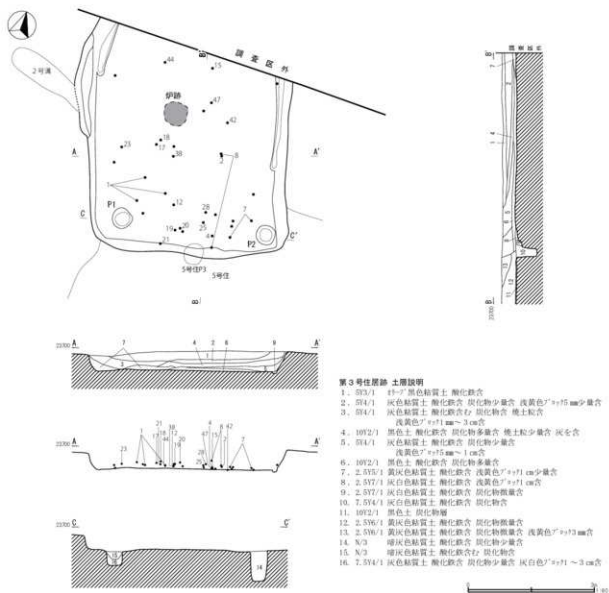
部は軽く外傾して開き、頸部以下は胴部に向かって開く形状の大型の個体である。口端に刻みが巡り、口縁部は縦長の小振りな貼付文が施され、2条の山形文が巡る。頸部は5本一単位の簾状文が巡る。12は口縁へ胴上部までの部位。口縁部はゆるく外傾して開き、頸部以下はゆるやかに膨らむ。口唇に刻みが巡り、口縁部は無文である。頸部は4本一単位の簾状文が巡る。13は口縁へ胴下部までの部位。口縁部は外反して開き、胴部は球形を呈し、最大径は胴部中段で測る。口端にL R単節縄文が巡り、口縁部は指頭圧痕が巡る。頸部は4本一単位の簾状文が巡る。胴部は斜格子文が施される。14は完形である。口縁部は外傾して開き最大径を測る。頸部以下は底部へ向かってゆるやかにすぼまる。頸部は4本一単位の簾状文が巡り、胴部は4本一単位の縦位の羽状文が施される。115は胴部下半から底部までの部位である。垂下するやや太めの沈線が密に施される。16は頸へ胴上部の部位で頸部に簾状文が巡る。59～67は櫛歯状工具による羽状文が施される破片。59～65が縦位、66・67が横位に施される。59は口端にL R単節縄文が施され、頸部に4本一単位の簾状文が巡る。64は2本一単位、65は3本一単位の櫛歯状工具である。68は横位の羽状文または複合鋸歯文の可能性があり。69～73は櫛歯状工具による斜格子文が施される破片。74・75は頸部に簾状文が施される破片だが、59・60・65・68・82にも簾状文がみられた。76は外反する口縁部片で横位のハケメ調整がみられ、口端にR L単節縄文が施される。77～81は櫛歯状工具による振りの小さい波状文が施される破片。77は口端にR L単節縄文が巡る。78は口端に押圧による窪みが巡る。79は口端に横位の沈線が粗雑に施される。82～86はコの字重ね文が施される破片。82は口端に無節R縄文が施され、頸部に4本一単位の簾状文が巡る。84はボタン状貼付文が施される。87はR L単節縄文地にコの字重ね文または重四角文が施される。88～93は口縁部片。88は屈曲し直立する口端から口縁部にR L単節縄文が施される。89は屈曲し直立する形状を呈し、口端から口縁部に巡る山形文の上までL R単節縄文が施される。90は屈曲し外傾気味の形状を呈し、口端から口縁部に巡る山形文の下までL R単節縄文が施される。91はゆるやかに屈曲し外傾する形状を呈し、口端に縄文が施される。口縁部は平行するゆるやかな波状文が施される。92・93は無文であり、92はゆるやかに外反し、93は外反して開く形状である。口端に縄文が不明瞭ながら施され、カナムグラによる擬縄文が。

17～29は弥生土器高坏。17は完形で、内外面に赤彩されており無文である。口縁部は直立し、最大径は口縁部で測る。坏部は深身で埴形を呈し、脚部は最大径の2/3程の径である。18～19は口縁部片。18・19は外傾する形状で、18は大きく開く。20は外反して大きく開く形状で、内面に小ぶりの円形刺突が施文される。21～23は体部片でいずれも無文である。24～29は接合部から脚部までの部位である。24は底部に焼成前穿孔が施される。赤彩のある破片の赤彩箇所は18・19・21～23が内外面、20は外面と内面の口縁部縁、25は外面と脚部内面、26は外面と坏部内面、27は外面である。

30～43は弥生土器の壺または甕の底部片であるが、30のみ甕の底部片で、穿孔は1つである。31は底部外面に布目の圧痕が残る。40～42は内外面に赤彩が施される。

94～99は石器。94～96はいずれも砂岩製の磨石で扁平な形状である。97は砂岩製の叩石で片端に敲打痕がみられた。98・99は石皿で、98はポットホールがある安山岩製のもの。99は閃緑岩製である。

**時期** 弥生時代中期後半～末



第14図 第3号住居跡

### 第3号住居跡 (第14図)

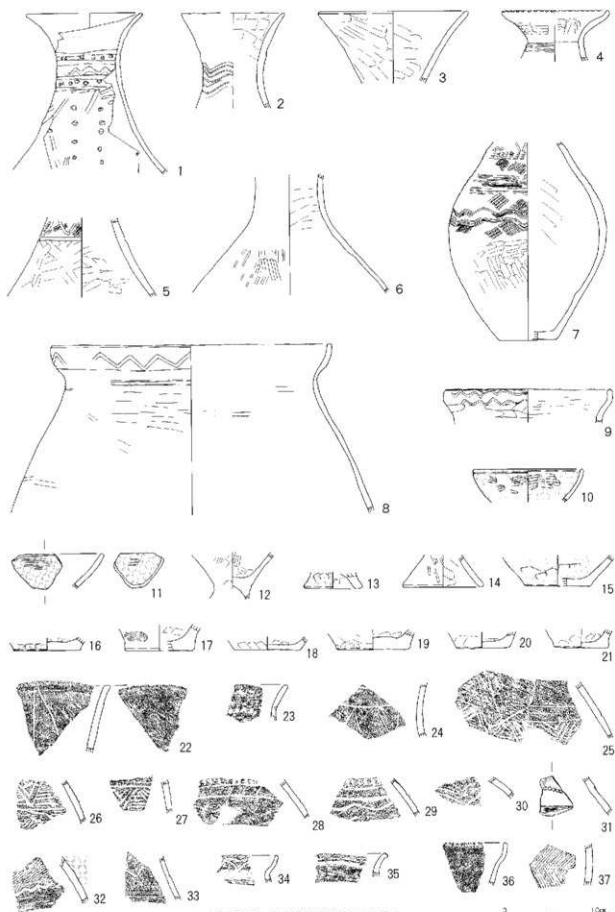
**位置** 61・62 - 139 グリッドに位置する。

**規模** 検出範囲で、長軸は5.8 m、短軸は3.5 m、確認面からの残存壁高は30 cmを測る。平面形は長方形を呈する。主軸の方位はN-19° - Wを示す。

**概要** 北側は調査区外であるが、過去の調査結果から61・62 - 139 グリッド内に取まる規模とみられる。ピット2基、炉跡1基、壁周溝を検出した。ピットは遺構内南側の東西で確認され、P1・2は深さに差があるものの、配置状況から柱穴の可能性がある。炉跡は円形の焼土範囲として検出し42 cmを測る。床面は良く焼土化している。壁周溝は、幅7 cm、深さ3 cmを測り、東西の壁下にみられるが、西壁下は北寄り、東壁下は南寄りで延長は途切れ、南壁下へは巡らない。

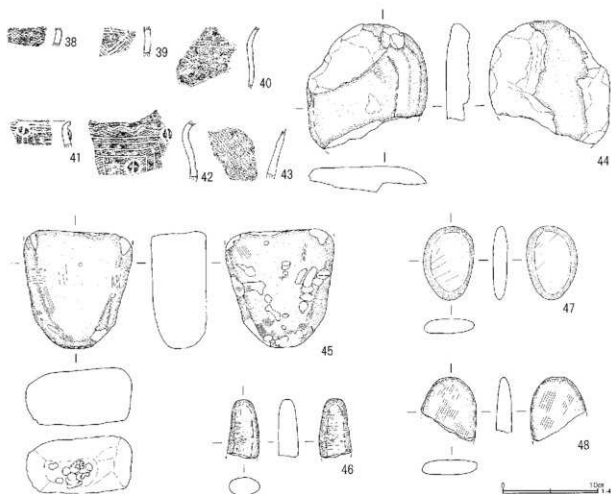
**重複** 第2号溝跡、第5号住居跡と重複し、本遺構は第2号遺跡より古く、第5号住居跡より新しい。

**遺物** (第15・16図、第4表) 弥生土器壺、甕、高坏、石皿、磨石、編物石等を検出した。



第15图 第3号住居跡出土遺物1





第16図 第3号住居跡出土遺物2

1～7、22～33は弥生土器壺。1は外面が赤彩された口縁～肩部までの部位。口縁部は外反して開き、頸部は中段でくびれて肩部へむかってゆるやかに開く。頸部は平行沈線間に半円形の刺突が巡る文様が2単位巡り、その間を山形文または波状文が巡る。頸部の平行沈線以下は半円状の刺突列が2条垂下しており、懸垂文を構成するものか。2は口縁～頸部までの部位。口縁部はゆるく外反し、頸部は直立し下部へゆるやかに開く形状。頸部は5条の波状文がやや太い沈線で施される。3は口縁部で外傾して開く形状であり、無文である。4は口縁～頸部までの部位。形状は、頭上端部で屈曲して口縁部へ向かって外傾して大きく開き、口端部で内湾し直立気味となる。頸部は上端がすぼまり、肩部へ向かってゆるやかに開く。口端に刻みまたは縄文が巡り、頸部には3条の浅い平行沈線が巡る。5・6は頭～肩部までの部位。5はなだらかに開く形状で、頸部に巡る沈線の上はR L単節縄文地に山形文が施され、下は無文である。6は頸部が下端部ですぼまって直立する。肩部は開く形状で無文である。7は肩～底部までの部位で、胴部はラグビーボール状に張る形状。胴部中段まではR L単節縄文を地文として、肩部は上から山形文、3本一単位の縷状文が巡り、胴部は上段に3本一単位で櫛歯状工具による横位の直線文、中段に波状文が巡り、以下はミガキで調整される無文である。22・23は口縁部片。22は口唇内外面及び口端にカナムグラによる擬縄文が施される。口縁部外面は鉅歯文が施され、上向きに区画に偽縄文が充填される。23は屈曲して外傾する形状で、屈曲箇所には円形の刺突列が巡る。24は頸部片で平行沈線

第4表 第3号住居跡出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器 蓋	(12.10)	(17.10)	-	ABE	外面：にじい・黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	口～胴部 50%	内外面磨粒顕著 内外面赤帯有
2	弥生土器 蓋	(10.90)	(10.00)	-	ABHN	外面：にじい・黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	口～胴部 70%	内外面磨粒顕著 内面磨粒：口縁部横位のハケメ
3	弥生土器 蓋	(16.00)	(7.60)	-	ABHN	外面：浅黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	口縁部 23%	内外面磨粒顕著 外面磨粒 外面磨粒：同位ハケメ後横位のヘラミダギ
4	弥生土器 蓋	11.00	5.40	-	ABHN	外面：にじい・褐色 内面：にじい・褐色	A	口～胴部 70%	内面磨粒：口縁部横位、縦部横位のヘラミダギ 外面磨粒：横位のハケメ後横位のヘラミダギ
5	弥生土器 蓋	-	8.90	-	ABHN	外面：にじい・黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	胴～胴上部 40%	内外面磨粒顕著 外面磨粒：縦位のヘラミダギ
6	弥生土器 蓋	-	(12.80)	-	BS	外面：にじい・黄褐色 内面：褐色	B	胴部 40%	内外面磨粒顕著 内面磨粒：肩位横位のヘラミダギ
7	弥生土器 蓋	-	(20.90)	(6.20)	ABHN	外面：浅黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	胴～底部 53%	内外面磨粒顕著 外面磨粒 外面磨粒：同位ハケメ後横位のヘラミダギ 下段斜位のヘラミダギ後縦・斜位のヘラミダギ
8	弥生土器 甕	(29.70)	(18.00)	-	BCN	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	B	口～胴上部 25%	内外面磨粒顕著
9	弥生土器 甕	(17.40)	(3.60)	-	AB	外面：褐色 内面：褐色	A	口縁部 23%	内面磨粒：横位のハケメ後横位のヘラミダギ 外面磨粒：横位のヘラミダギ
10	弥生土器 高坪	(11.80)	(3.50)	-	BS	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	A	口縁部 20%	内外面赤帯有 内面磨粒：横位のヘラミダギ 外面磨粒：横位のヘラミダギ
11	弥生土器 高坪	-	-	-	BS	外面：明赤褐色 内面：赤褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内外面赤帯有 内面磨粒：横位のヘラミダギ 外面磨粒：横位のヘラミダギ
12	弥生土器 高坪	-	(5.00)	-	ABHN	外面：靑灰色 内面：靑灰色	B	底～脚部 50%	内外面磨粒顕著 内面磨粒：接合部横位のナゲ
13	弥生土器 高坪	-	(1.80)	(6.40)	BI	外面：にじい・褐色 内面：にじい・褐色	C	脚部 20%	内外面磨粒顕著 外面及び脚部表面に赤帯有
14	弥生土器 高坪	-	(3.40)	(8.40)	ABHK	外面：にじい・黄褐色 内面：反黄褐色	B	脚部 20%	内外面磨粒顕著 外面磨粒：縦位のヘラミダギ
15	弥生土器 底蓋	-	(3.30)	(7.60)	BS	外面：浅黄褐色 内面：にじい・褐色	B	底部 30%	内外面磨粒顕著 内外面赤帯有 内面磨粒：横位のヘラミダギ
16	弥生土器 底蓋	-	(1.40)	(7.20)	BS	外面：靑灰色 内面：反靑色	B	底部 25%	内外面磨粒顕著 内外面赤帯有 内面磨粒：横位のヘラミダギ 胴下部縁部直上
17	弥生土器 底蓋	-	(2.80)	(7.40)	BS	外面：浅黄褐色 内面：赤褐色	B	底部 25%	内外面磨粒 内面磨粒：横位のヘラミダギ 外面磨粒：斜位のヘラミダギ 胴下部横位のヘラミダギ
18	弥生土器 底蓋	-	(1.40)	(7.60)	BS	外面：浅黄褐色 内面：靑灰色	B	底部 30%	内外面磨粒顕著 内面磨粒：横位のナゲ
19	弥生土器 底蓋	-	(2.10)	7.80	ABHN	外面：にじい・黄褐色 内面：褐色	B	底部 100%	内外面磨粒顕著
20	弥生土器 底蓋	-	(1.70)	5.60	ABHN	外面：反黄褐色 内面：反黄褐色	A	底部 100%	内面磨粒：横位のナゲ 外面磨粒：横位のヘラミダギ
21	弥生土器 底蓋	-	(2.00)	5.30	ABHN	外面：反黄褐色 内面：靑灰色	A	底部 100%	内面磨粒：横位のナゲ 外面磨粒：横・斜位のヘラミダギ
22	弥生土器 蓋	-	-	-	BS	外面：反靑色 内面：反黄褐色	A	口縁部片	内面磨粒：横位のヘラミダギ 外面磨粒：口縁上部横位のヘラミダギ 口縁部斜位のヘラミダギ
23	弥生土器 蓋	-	-	-	BCMN	外面：浅黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著
24	弥生土器 蓋	-	-	-	ABK	外面：靑灰色 内面：反黄褐色	A	胴部片	内面磨粒：縦位のヘラミダギ 外面磨粒：斜位のヘラミダギ
25	弥生土器 蓋	-	-	-	ABK	外面：反黄褐色 内面：浅黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面磨粒：肩位横位のハケメ 胴位横位のヘラミダギ 外面磨粒：肩位斜位、横位横位のハケメ
26	弥生土器 蓋	-	-	-	BI	外面：にじい・黄色 内面：にじい・黄色	B	胴上部片	内外面赤帯有 内面磨粒：横位のハケメ後横位のヘラミダギ 外面磨粒：斜位のハケメ
27	弥生土器 蓋	-	-	-	BS	外面：にじい・黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顕著
28	弥生土器 蓋	-	-	-	ABK	外面：にじい・黄色 内面：にじい・黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著
29	弥生土器 蓋	-	-	-	ACKN	外面：にじい・黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顕著
30	弥生土器 甕	-	-	-	BS	外面：浅黄褐色 内面：反白色	B	胴上部片	内面磨粒 内面磨粒：横位のヘラミダギ 外面磨粒：横位のヘラミダギ
31	弥生土器 甕	-	-	-	BI	外面：反黄褐色 内面：靑灰色	B	胴上部片	内外面磨粒顕著
32	弥生土器 甕	-	-	-	ABK	外面：反黄褐色 内面：靑灰色	B	胴上部片	内外面磨粒顕著 外面赤帯有
33	弥生土器 甕	-	-	-	BS	外面：明靑灰色 内面：反白色	B	胴上部片	内外面磨粒 外面赤帯有 内面磨粒：横位のヘラミダギ 外面磨粒：器文部横位のヘラミダギ
34	弥生土器 甕	-	-	-	ABK	外面：赤褐色 内面：赤褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著 外面磨粒：横位のハケメ
35	弥生土器 甕	-	-	-	ABK	外面：赤褐色 内面：赤褐色	A	口縁部片	内面磨粒：横位のハケメ後横位のヘラミダギ 外面磨粒：横位のヘラミダギ

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
36	弥生土器 甕	-	-	-	BIN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	口縁部片	内面調整：横位のハケメ 外面調整：横位のハケメ
37	弥生土器 甕	-	-	-	B	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	胴中部片	内面調整：横位のハケメ 外面調整：斜位のヘラナゲ後縦位のヘラミダギ
38	弥生土器 甕	-	-	-	BB1	外面：灰黄褐色 内面：黒褐色	B	胴部片	内外面磨耗 内面調整：横位のハケメ
39	弥生土器 甕	-	-	-	BN	外面：黒色 内面：黒褐色	A	胴上部片	内面調整：斜位のヘラミダギ 外面調整：縦位のヘラミダギ
40	弥生土器 甕	-	-	-	BBKN	外面：にぶい褐色 内面：黒褐色	C	底部片	内外面磨耗顕著
41	弥生土器 甕	-	-	-	BBBK	外面：黒褐色 内面：黄褐色	A	口縁部片	内面調整：横位のヘラミダギ 外面調整：縦位のヘラミダギ
42	弥生土器 甕	-	-	-	BBK	外面：黒色 内面：黒色	A	胴～胴中部片	内面調整：横位のヘラミダギ後縦位のヘラミダギ 外面調整：横位のヘラナゲ
43	弥生土器 甕	-	-	-	B	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴下部片	内外面磨耗顕著
44	石皿	最大長 (13.65)	最大幅 (12.8)	最大厚 (2.73)	重量 470 g	片場欠損	砂岩製		
45	磨石	最大長 (12.4)	最大幅 11.5	最大厚 6.0	重量 1199 g	片場欠損	礫岩製		
46	編物石	最大長 6.1	最大幅 3.5	最大厚 2.1	重量 16 g	片場欠損	砂岩製		
47	磨石	最大長 7.75	最大幅 3.4	最大厚 1.5	重量 97 g	完形	結晶片岩製		
48	磨石	最大長 16.40	最大幅 5.9	最大厚 1.6	重量 66 g	50%	砂岩製		

内と上向き鋸歯文内にカナムグラによる擬縄文が充填される。25～27は複合鋸歯文が施文される破片。28・29は爪型状刺突列と平行沈線が施文される破片。29は沈線下に弧線文か。30は山形文または波状文が施文される破片。31は外面に赤彩がみられるが、円形刺突列と横位の沈線間は彩られない。32・33は山形文が巡る破片。32は山形文の上に無節L縄文の充填に加えて赤彩される。

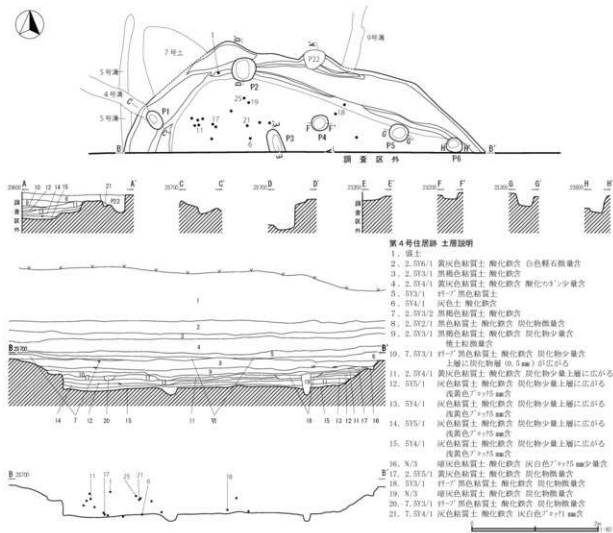
8・9、34～43は弥生土器甕。8は口縁～胴上部までの部位。口縁部は屈曲して立ちあがり、頸部から胴部は外傾して開く形状で、最大径は胴部にある大形の壺である。口縁部は山形文が巡り、頸部に不明瞭な沈線が2～3条巡る。胴部は無文である。9は口縁～頸部までの部位。口縁部に粗雑な山形文または波状文が2条巡る。34～36は口縁部片。34は屈曲して内湾し立ち上がる形状で、口端に無節L縄文が施され、口縁部は山形文が巡り、頸部には簾状文が施される。35は外反して口唇がふくらむ形状で、口端に無節L縄文が施される。36は内湾して立ち上がる形状で、口端に無節L縄文が施される。37～40は櫛歯状工具により施文される破片。37は横位の羽状文。38は振りの小さい波状文。39・40は簾状文が巡る破片で、39は下に波状文または山形文が施される。41・42はボタン状貼付文が付されるコの字重ね文が施される破片。42は無節L縄文を地文としているが、重四角文の可能性もある。

10～14は弥生土器高坏。10・11・15は内外面に、13は外面に赤彩がみられた。10・11は坏部口縁の破片で、無文である。10はゆるく内湾して直立する形状。11は外傾して開く形状。12は坏底～脚部片である。12・13は脚部であり、13は小振りである。

15～21は弥生土器の壺または甕の底部片である。15・16は内外面に赤彩されている。

44～46は石器。44は砂岩製の石皿。45・47・48は磨石。45は礫岩製としたが砂岩製かもしれない。全面が磨られているほか、先端部に敲打痕がみられ、敲打具としての用途も考えられる。47・48は扁平な形状で、47は結晶片岩製、48は砂岩製である。46は砂岩製の編物石か。先端部は磨耗し、中央部は長軸に対し短軸方向の擦痕が多くみられ、擦痕は断面が「U」字状で非常に浅く2本一単位とみられる。

時期 弥生時代中期後半～末



第17図 第4号住居跡

#### 第4号住居跡 (第17図)

**位置** 61・62 - 140・141 グリッドに位置する。

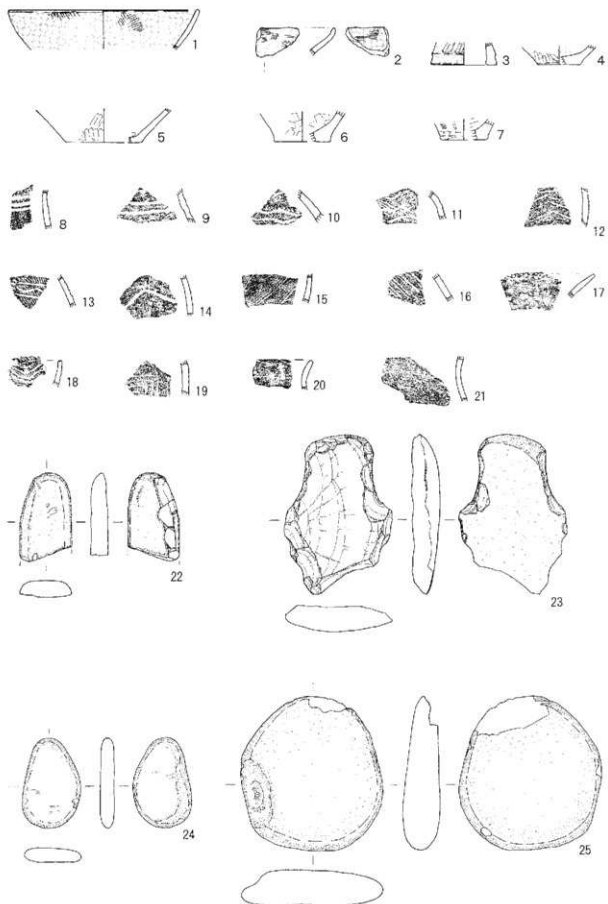
**規模** 検出範囲で、拡張部も含め長軸は4.8 m、短軸は1.5 mを測る。確認面からの残存壁高は36 cmを測る。拡張部の確認面からの残存壁高は西側が、北側が、東側がを測り、バラつきがみられる。平面形は崩れた隅丸方形状を呈し、主軸の方位はN-71° - Wを示す。

**概要** 南側の大半が調査区外である。北・西側は拡張部が確認され、ピット6基を検出した。拡張部は検出箇所の方全方位を広げた状況で確認され、床面はなだらかな傾斜をもち部分的に段がある。ピットについて、北側のP2・4・5・6は壁に沿って概ね列をなし柱穴の可能性がある。炉跡については、焼土が床面に散っている箇所はみられたものの、明確に判断できる痕跡はみられなかった。また、壁周溝についても確認されなかった。

**重複** 第4・5・9号溝跡、第7号土坑と重複し、本遺構は第4・5・9号溝跡より古く、第7号土坑より新しい。

**遺物 (第18図、第5表)** 弥生土器壺、甕、高坏、磨石、打製石斧、石皿等を検出した。

1～3は弥生土器高坏。1・2は内外面、3は外面が赤彩されている。1・2は坏口口縁～体部の部位。



第18图 第4号住居跡出土遺物

第5表 第4号住居跡出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器 高坪	(20.40)	(4.20)	-	ABS	外面：褐色褐色 内面：赤褐色	B	口縁部 20%	内外面磨粒顯著 内外面赤褐色 内面磨粒：縦位のヘラミダギ 外面磨粒：縦位のヘラミダギ
2	弥生土器 高坪	-	-	-	BDI	外面：赤褐色 内面：赤褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内外面赤褐色 内面磨粒：縦位のヘラミダギ 外面磨粒：縦位のヘラミダギ
3	弥生土器 高坪	-	(2.40)	-	BDIHS	外面：褐色 内面：黒褐色	A	脚部 20%	外面及び脚部接合部に赤褐色 内面磨粒：縦位のヘラミダギ 外面磨粒：縦位のヘラミダギ
4	弥生土器 底器	-	(2.00)	4.00	BSK	外面：褐色灰色 内面：緑赤灰色	B	底器 80%	内外面磨粒顯著 内外面赤褐色 内面磨粒：縦位のナデ 外面磨粒：脚下部縦位のヘラミダギ
5	弥生土器 底器	-	(3.60)	(8.20)	ABS	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	B	底器 10%	内外面磨粒 内面磨粒：縦位のナデ 外面磨粒：縦位のヘラミダギ
6	弥生土器 底器	-	(3.20)	(6.00)	ABS	外面：にぶい黄褐色 内面：褐色	B	底器 20%	内外面磨粒 内面磨粒：縦位のヘラミダギ 外面磨粒：縦位のヘラミダギ
7	弥生土器 底器	-	(2.20)	(5.00)	ABS	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色	B	底器 80%	内外面磨粒顯著 外面磨粒：縦位のヘラミダギ
8	弥生土器 壺	-	-	-	BDI	外面：灰黄色 内面：にぶい黄褐色	B	破片片	内外面磨粒顯著
9	弥生土器 壺	-	-	-	BSK	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐色	B	胴～胴上部片	内外面磨粒顯著
10	弥生土器 壺	-	-	-	BDI	外面：にぶい黄褐色 内面：褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
11	弥生土器 壺	-	-	-	BSRHS	外面：灰黄褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著 内面磨粒：縦位のヘラミダギ
12	弥生土器 壺	-	-	-	BSI	外面：褐色 内面：褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
13	弥生土器 壺	-	-	-	BS	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著 外面磨粒
14	弥生土器 壺	-	-	-	BSIN	外面：褐色 内面：黄褐色	C	胴上部片	内外面磨粒顯著
15	弥生土器 甕	-	-	-	BDI	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色	B	胴中部片	内外面磨粒顯著
16	弥生土器 甕	-	-	-	BS	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴中部片	内外面磨粒顯著
17	弥生土器 甕	-	-	-	BSRHSIN	外面：褐色 内面：灰黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面磨粒：縦位のヘラミダギ 外面磨粒：縦位のヘラミダギ
18	弥生土器 甕	-	-	-	ABS	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	口縁部片	内面磨粒：縦位のナデ
19	弥生土器 甕	-	-	-	BSRI	外面：にぶい黄褐色 内面：褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
20	弥生土器 甕	-	-	-	BSIN	外面：灰黄褐色 内面：褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面磨粒：縦位のナデ後縦位のヘラミダギ 外面磨粒：縦位のナデ
21	弥生土器 甕	-	-	-	BSIN	外面：褐色 内面：褐色	B	破片片	内外面磨粒 内面磨粒：縦位のハケメ後横・斜位のヘラミダギ 外面磨粒：縦位のナデ後縦位のヘラミダギ
22	磨石	最大長 19.30	最大幅 5.5	最大厚 1.85	重さ 145 g	片礫欠損 結晶片岩製			
23	打製石	最大長 16.9	最大幅 11.4	最大厚 3.0	重さ 594 g	定形 砂岩製			
24	磨石	最大長 9.5	最大幅 6.2	最大厚 1.5	重さ 125 g	定形 砂岩製			
25	石重	最大長 (16.0)	最大幅 15.1	最大厚 4.0	重さ 1419 g	一部欠損 閃緑岩製			

1は外傾して開き、2は体部が外傾して大きく開くが口縁部が屈曲して立ち上がる。3は脚部で、底縁がゆるく窪む。

8～14は弥生土器壺で頭～胴部までの破片。8・9は平行沈線が施される破片で、9は沈線の下に無節L縄文が施されている。10・11は波状文または弧線文が施される破片。10は波状文に沿って円形刺突列が施文される。11は無節R縄文を地文とする。12は沈線の下に3条の弧線文が施される。13はLR単節縄文地で平行沈線間に波状文が巡る。14はゆるい山形文または波状文が施文される。

15～21は弥生土器甕。15・16は櫛歯状工具による横位の羽状文が施文される胴部片。17・18は口縁部片で、17は口端にR L単節縄文が施される。18は口端から口縁部にかけてR L単節縄文が施され、口縁部に複数の平行する山形文が施文される。19はコの字重ね文が施される破片。20は無文の口縁部片。

21は無文の頸部片。

4～7は弥生土器の壺または甕の底部片。4は内外面が赤彩される。

22～25は石器。22・24は磨石で扁平な形状である。22は結晶片岩製、24は砂岩製である。23は砂岩製の打製石斧で先端部を欠く。25は閃緑岩製の石皿である。

時期 弥生時代中期後半～末

#### 第5号住居跡（第19図）

位置 61・62 - 139・140 グリッドに位置する。

規模 長軸は5.2 m、短軸は4.5 mを測る。確認面からの残存壁高は28 cmを測る。平面形は南北が若干長い長方形を呈し、主軸の方位はN-10° - Eを示す。

概要 北西コーナーが第3号住居跡に切られるが、全体が調査区内である。ビット8基を検出し、P1～4は柱穴と考えられる。炉跡は焼土範囲として検出し60 cmを測る。壁周溝は、幅17 cm、深さ9 cmを測り、全周を巡る。

重複 第3号住居跡、第1・7・9号溝跡、第3号土坑と重複し、本遺構が古い。

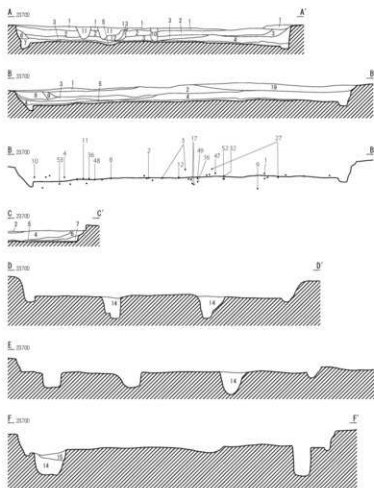
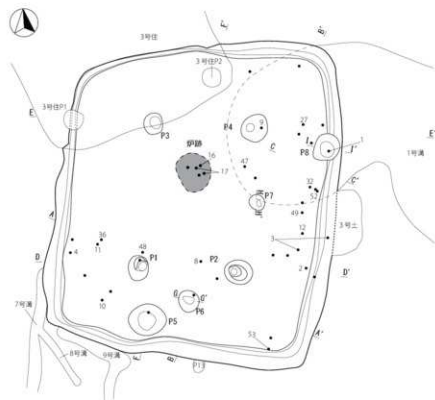
遺物（第20・21図、第6表） 弥生土器壺、甕、高坏、磨石、叩石、石皿、須恵器坏等を検出した。

1、13～23は弥生土器壺。1は頸～肩部までの部位。頸部は直立し、肩部はなだらかに開く形状。頸部は2条の半円形の刺突列間にL R単節縄文が充填され、肩部は上向きの鋸歯状文内にL R単節縄文が充填される。13は内外面が赤彩された口縁部片。口縁部は山形文が巡る上に縄文が施される。14～16は平行沈線が施文される破片。15は無節L縄文を地文とする。16は平行沈線間に波状文が巡る。17は口縁～頸部片までの部位。口縁部は外反して開き、頸部は直立する形状。口端にL R単節縄文が施され、口縁部は無文で、頸部は横位の沈線下に斜位の沈線が連続して施される。18は横位の沈線が巡る破片。19・20は重三角文が施される破片。21・22は平行沈線間に縄文が充填される破片。21は弧線文で、L R単節縄文。22はR L単節縄文。23は沈線下に半円形の刺突列が2条巡る。

2・3、24～45は弥生土器甕。2は口縁～胴中部までの部位。内外面が赤彩され、口縁部は外傾して開き、胴部は球形を呈する。3は胴部中段から下段にかけての部位。外傾して開く形状で、縦位の羽状文が施される。24は口縁から胴上部の破片。内外面が赤彩され、頸部に穿孔が1つみられた。25～28、36は頸部に簾状文が巡る破片。25は口端にL R単節縄文を施す。28～31は波状文が施される破片。28～30は振りが小さく、31は粗雑に施される。30は波状文の上に4本一単位の平行沈線が巡る。32・33は櫛歯状工具による羽状文が施される破片。34はハケメ調整された破片。35・36は斜格子文が施される破片。37は口縁～胴上部片で、口縁部は2条の山形文の下に斜行沈線が施され、胴部はR L単節縄文地に4本の垂下する沈線が施される。コの字重ね文か。38～44はコの字重ね文が施される破片。38はコの字の中に波状文が横位に施される。42は無節L縄文を地文とする。43はコの字の中に波状文が縦位に施される。44はボタン状貼付文が付される。45は無節L縄文地の口縁部片。

4は弥生土器高坏で、坏部と脚部の接合箇所である。

5～12は弥生土器の壺または甕の底部片。5は2条のやや太めの沈線が巡る。7は内外面が赤彩される。

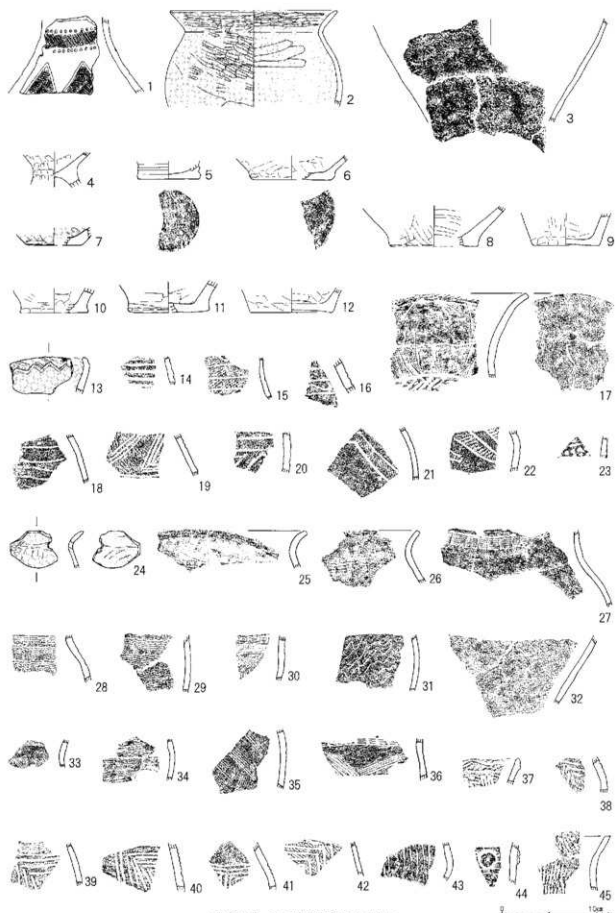


#### 第5号住居跡 土層説明

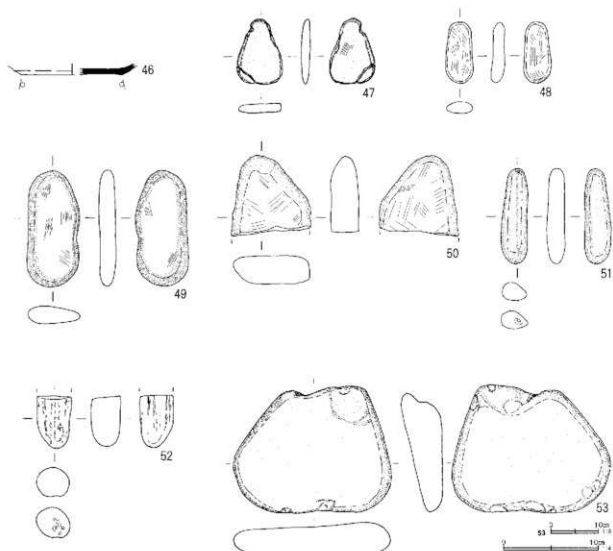
1. 2.02/1 黒褐色粘質土 酸化鉄含有
2. 5.06/1 灰色粘質土 酸化鉄含有  
空地山 灰白色粘質土含 S103 の層剛土含
3. 2.02/2 黒色粘質土 酸化鉄含有 炭化物多量含有
4. 2.02/4 黄灰色粘質土 酸化鉄含有 炭化物少量含有  
黄灰色 F<sub>2</sub>+75 mm 含有
5. 2.02/2/1 黒色土 炭化物層
6. 5.04/1 灰色粘質土 酸化鉄含有
7. 2.05/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含有
8. 2.02/3 黒褐色粘質土 酸化鉄含有 黄灰色 F<sub>2</sub>+75 mm 少量含有
9. 2.02/2/1 黒色土 酸化鉄含有 炭化物多量含有
10. 2.02/3 黒褐色粘質土 酸化鉄含有
11. 2.02/3 黒褐色粘質土 酸化鉄含有 黄灰色 F<sub>2</sub>+75 mm 少量含有
12. 2.02/3 黒褐色粘質土 酸化鉄含有 黄灰色 F<sub>2</sub>+75 mm 含有
13. 2.02/2/1 黒色土 炭化物多量含有
14. 2.02/6/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含有 炭化物少量含有
15. 2.02/2/1 黒色粘質土 酸化鉄含有 炭化物多量含有  
黄灰色 F<sub>2</sub>+75 mm 含有
16. 3.02/5/1 灰色粘質土 酸化鉄含有 炭化物含有
17. 2.02/6/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含有 炭化物少量含有
18. 2.02/6/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含有
19. 2.02/5/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含有 炭化物少量含有  
全第1号溝跡覆土

第19図 第5号住居跡





第 20 图 第 5 号住居跡出土物 1



第21図 第5号住居跡出土遺物2

第6表 第5号住居跡出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器 蓋	-	-	-	HRN	外面: 黄褐色 内面: にじみ・黄褐色	A	破断片	外面縄文彫文器所非直有 内面整形: 縁位のヘラミダキ 外面整形: 縁位のヘラミダキ
2	弥生土器 甕	(17.80)	(19.20)	-	HRHN	外面: 赤色 内面: 赤色	B	口~胴中部 80%	内面整形: 口縁部縁位のヘラミダキ 胴~胴部縁位のハケメ縁位のヘラミダキ 外面整形: 口縁~胴部縁位のヘラミダキ 胴部縁位のヘラミダキ
3	弥生土器 甕	-	(19.90)	-	HRH	外面: にじみ・黄褐色 内面: 赤色	B	胴下部 20%	外面整形: 縁位のヘラミダキ 内面整形: 縁位のヘラミダキ
4	弥生土器 高坪	-	(2.70)	-	HRKN	外面: 赤色 内面: にじみ・黄褐色	B	接合部 100%	内外面整形: 縁位のヘラミダキ
5	弥生土器 底器	-	(1.90)	(6.70)	HRK	外面: 灰黄褐色 内面: にじみ・黄褐色	B	底器 60%	内外面整形: 縁位のヘラミダキ 外面整形: 縁位のヘラミダキ
6	弥生土器 底器	-	(2.60)	(9.00)	HRK	外面: 灰黄褐色 内面: 黄褐色	B	底器 20%	外面整形: 縁・斜位のヘラミダキ
7	弥生土器 底器	-	(1.95)	(6.00)	B	外面: にじみ・黄褐色 内面: 赤色	B	底器 10%	内外面整形: 縁・斜位のヘラミダキ
8	弥生土器 底器	-	(4.20)	(9.80)	HRK	外面: にじみ・黄褐色 内面: 灰黄褐色	B	底器 20%	内面整形: 縁位のヘラミダキ 外面整形: 縁位のヘラミダキ
9	弥生土器 底器	-	(3.40)	(7.00)	HRN	外面: にじみ・黄褐色 内面: にじみ・黄褐色	B	底器 90%	外面整形: 縁位のヘラミダキ 内面整形: 縁位のヘラミダキ
10	弥生土器 底器	-	(2.60)	(7.20)	HRHN	外面: にじみ・黄褐色 内面: 灰黄褐色	A	底器 20%	内面整形: 縁位のヘラミダキ 外面整形: 縁位のヘラミダキ

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
11	弥生土器 直器	-	0.303	0.701	0IK	外面：棕色 内面：黒褐色	B	底器 50%	内外面磨粒 内面磨形：斜位のヘラミダギキ 外面磨形：横位のヘラミダギ
12	弥生土器 直器	-	0.603	0.603	0IK	外面：黒褐色 内面：反黄褐色	B	底器 60%	内外面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギキ 外面磨形：横位のヘラミダギキ
13	弥生土器 直器	-	-	-	0IN	外面：にじい・黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著 内外面赤点有
14	弥生土器 直器	-	-	-	0IN	外面：棕色 内面：にじい・褐色	B	内外器片	内外面磨粒顯著 外面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ
15	弥生土器 直器	-	-	-	0I	外面：灰白色 内面：黒褐色	B	胴部片	内外面磨粒顯著 外面磨粒顯著 内面磨形：斜位のヘラミダギキ
16	弥生土器 直器	-	-	-	00I	外面：反黄褐色 内面：黒色	B	胴部片	内外面磨粒顯著
17	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：棕色 内面：黒色	A	口縁部片	内面磨形：横位のハケメ後横位のヘラミダギキ 外面磨形：口縁部横位から胴部斜位のハケメ後横位のヘラミダギ
18	弥生土器 直器	-	-	-	00KN	外面：反黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著 外面磨粒 外面磨形：横位のハケメ
19	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ
20	弥生土器 直器	-	-	-	00KN	外面：反黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
21	弥生土器 直器	-	-	-	00KN	外面：にじい・黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒 外面磨形：横位のヘラミダギ
22	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：反黄褐色 内面：黒褐色	B	胴中部片	内外面磨粒顯著
23	弥生土器 直器	-	-	-	00IN	外面：黒褐色 内面：にじい・黄褐色	B	胴中部片	内外面磨粒顯著
24	弥生土器 直器	-	-	-	00I	外面：棕色 内面：反黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著 内外面赤点有 外面磨形：胴部横位のヘラミダギ
25	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：黒褐色 内面：褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面磨形：横位のハケメ後ヘラミダギ 外面磨形：横位横位のヘラミダギ
26	弥生土器 直器	-	-	-	00KN	外面：にじい・黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ
27	弥生土器 直器	-	-	-	0IN	外面：にじい・黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
28	弥生土器 直器	-	-	-	00KN	外面：反黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴～胴上部片	内面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ
29	弥生土器 直器	-	-	-	0IN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴中部片	外面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ
30	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内面磨形：胴部横位のヘラミダギ 胴部斜位のハケメ
31	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴中部片	内外面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ
32	弥生土器 直器	-	-	-	00KN	外面：にじい・黄褐色 内面：黒色	B	胴下部片	内外面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ 外面磨形：斜位のハケメ後横位のヘラミダギ
33	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：棕色 内面：黒褐色	A	胴～胴上部片	内面磨形：横位のヘラミダギ 外面磨形：横位のヘラミダギ
34	弥生土器 直器	-	-	-	00II	外面：黒褐色 内面：焼灰色	B	胴中部片	内外面磨粒顯著 外面磨形：横位のハケメ
35	弥生土器 直器	-	-	-	00IK	外面：にじい・黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	胴中部片	内外面磨粒顯著
36	弥生土器 直器	-	-	-	0IN	外面：焼灰色 内面：反黄褐色	A	胴上部片	内面磨形：横位のヘラミダギ後、胴部3部位、胴部2部位にヘラミダギ 外面磨形：横位のヘラミダギ後横位のヘラミダギ
37	弥生土器 直器	-	-	-	00IK	外面：にじい・黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著
38	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：にじい・褐色 内面：にじい・黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
39	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴～胴上部片	内外面磨粒 内面磨形：横位のハケメ 外面磨形：横位のハケメ
40	弥生土器 直器	-	-	-	00KN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ
41	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：反黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著
42	弥生土器 直器	-	-	-	0IN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	胴上部片	内面磨形：横位のハケメ後ヘラミダギ
43	弥生土器 直器	-	-	-	0KN	外面：にじい・黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴中部片	内外面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ 外面磨形：横位のハケメ
44	弥生土器 直器	-	-	-	0IK	外面：反黄褐色 内面：にじい・黄褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顯著 外面磨粒 内面磨形：横位のヘラミダギ
45	弥生土器 直器	-	-	-	0K	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著 外面磨粒 外面磨形：斜位のハケメ
46	磨石 円	-	1.201	10.303	0FIN	外面：灰白色 内面：灰白色	A	底器 25%	南に企鵝 体部下部～底部外面磨粒ヘラミダギ
47	磨石	最大長 6.93	最大幅 4.85	最大厚 9.0	重さ 38 g	一部欠損	砂岩製		
48	磨石	最大長 6.4	最大幅 2.9	最大厚 1.2	重さ 36 g	完形	砂岩製		
49	磨石	最大長 12.2	最大幅 3.5	最大厚 1.9	重さ 184 g	ほぼ完形	砂岩製		

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
50	磨石	最大長 19.43	最大幅 8.4	最大厚 3.0	重さ 261 g		片端欠損 砂岩製		
51	叩石	最大長 10.0	最大幅 2.8	最大厚 1.9	重さ 82 g	完好	砂岩製		
52	叩石	最大長 15.43	最大幅 3.6	最大厚 3.2	重さ 99 g		片端欠損 結晶片岩製		
53	石皿	最大長 33.3	最大幅 27.0	最大厚 8.3	重さ 10800 g		完好 砂岩製		

46は須恵器坏で、底部外面は糸切離し後無調整である。

47～53は石器。47～50は磨石でいずれも砂岩製。47・48は小型で薄く扁平な形状。50はやや厚みがある。51・52は叩石で、51は片端に敲打痕のある砂岩製、52は結晶片岩製である。53は大型の石皿で砂岩製である。表面は研磨され平滑である。

時期 弥生時代中期後半

### 第6号住居跡（第22図）

位置 60－139・140グリッドに位置する。

規模 検出範囲で長軸は5.2m、短軸は5.5mを測る。確認面からの残存壁高は24cmを測る。平面形は隅丸方形状を呈し、主軸の方位はN-50°-Wを示す。

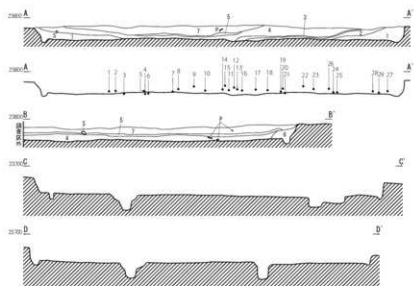
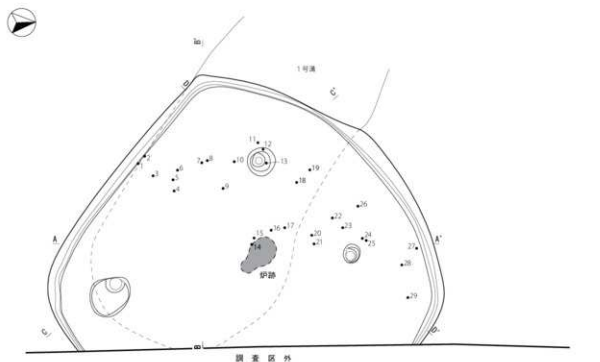
概要 南東側が調査区外である。ピット3基を検出し、配置と深さからいずれも柱穴と考えられる。炉跡は焼土範囲として検出し、長軸で65cmを測る。小円形と大円形がくっついた形状の範囲であり、2つの炉跡の痕跡かもしれない。壁周溝は、幅14cm、深さ7cmを測り、検出範囲の全周を巡る。

重複 第1号溝跡と重複し、本遺構は第1号溝跡より古い。

遺物（第23・24図、第7表） 弥生土器壺、甕、高坏、磨石、叩石等を検出した。

1、16～37、63は弥生土器壺。1は外面が赤彩された口縁部片である。外傾して開く形状で、LR単節縄文が巡る。16・17は口縁部片。16は屈曲して外傾が開く形状で頸部に沈線が巡る。17はLR単節縄文帯が巡り、下に半円形状の刺突列が巡る。18～37・63は肩～胴部までの部位。18・19は円形刺突列が巡る破片。20は外面が赤彩され、沈線下にカナムグラによる擬縄文が施される。21～23は鋸歯文が施される破片。21・22は上向き、23は下向きである。24は小さい振りの波状文が施される。25は沈線と爪形状刺突列で構成される懸垂文か。26は垂下する平行沈線が施文される。27・28・32～34・36は平行沈線が施される破片。27は沈線間を無節R縄文が施される。32・33は沈線間に波状文が巡り、33・34はLR単節縄文地である。36は幅広の沈線間に無節L縄文が施される。29は沈線下に山形文または波状文が施される破片。30・31は粗雑な沈線が施文される破片で、直線文または波状文とみられる。35は外面が赤彩され、沈線下にLR単節縄文が施される。37は内外面が赤彩された胴下部の破片。63はLR単節縄文地とする破片で、菱形連繫文による区画内に円形刺突が充填される。池上式とみられ流れ込みである。

2～5、38～62は弥生土器甕。2は口縁～胴上部までの部位。口縁部は屈曲して外傾し開くが、最大径は胴部となる。頸部は4本一単位の櫛歯状工具による簾状文が巡る。3は口縁～胴中部までの部位。口縁部は屈曲して外傾し短く開き、胴部はゆるやかに張り中段で最大径を測る。口端は棒状の圧痕が巡り、頸部は7本一単位の櫛歯状工具による簾状文が巡り、胴部は縦位の羽状文が施される。4は口縁部



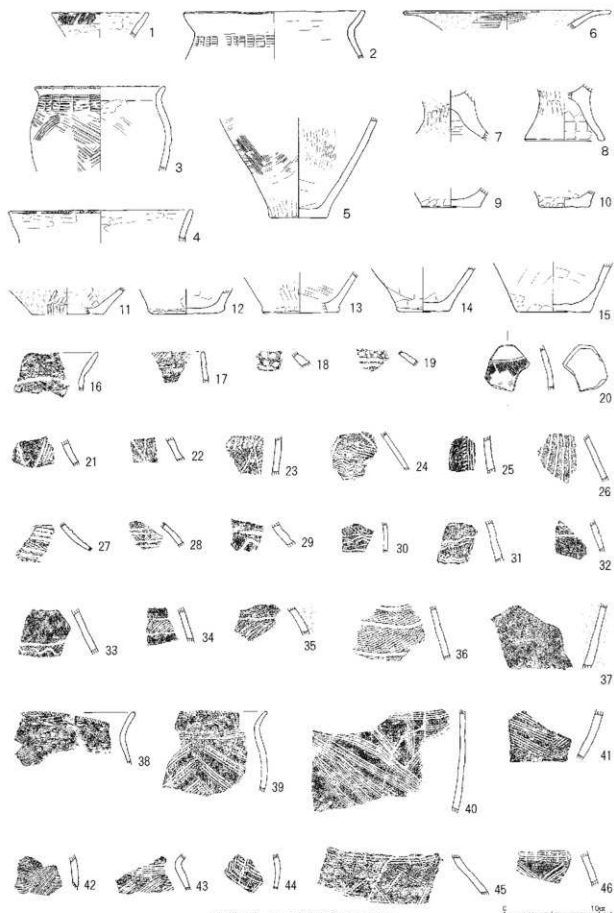
第6号住居跡 土層説明

1. 0/4/1 灰色粘質土 酸化鉄含 炭化物微量含  
浅黄色 $\gamma$ 0.71 cm少量含
2. 2.5/5/1 黄灰色土 酸化鉄含  $\gamma$ 0.31 粒少量含  
浅黄色 $\gamma$ 0.71 cm含
3. 2.5/2/3 赤色粘質土 酸化鉄含 炭化物多量含
4. 0/4/1 灰色粘質土 酸化鉄含  
浅黄色 $\gamma$ 0.71 cm少量含
5. 2.5/2/1 黑色粘質土 酸化鉄含 炭化物多量含
6. 2.5/6/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含
7. 2.5/5/1 黄灰色粘質土 酸化鉄含 炭化物微量含  
赤第1号凍結層土

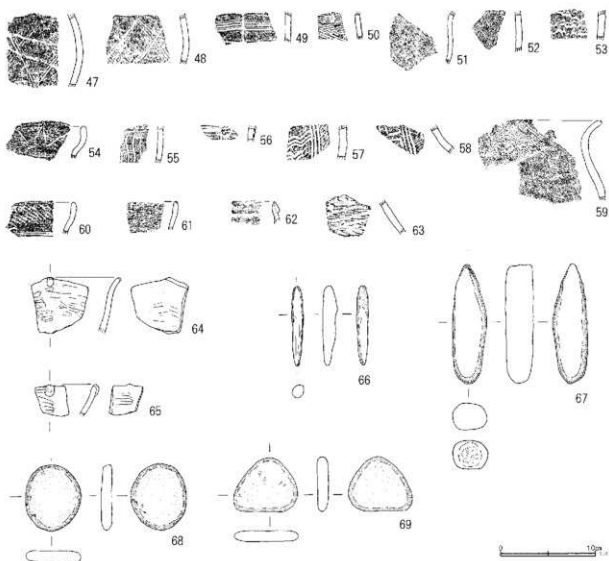
0 5 10

第22図 第6号住居跡

片で、外傾して開く形状。口端にR L単節縄文が施される。5は胴下～底部までの部位。縦位の羽状文が施される。38～44は羽状文が施される破片で、38～43は縦位、44は横位の羽状文である。38は口縁～胴上部までの部位。口端にR L単節縄文が巡る。39・40・43は頭部に簾状文が巡る。45～48は斜格子文が施される破片。45・46は頭部に簾状文が巡る。49は5本一単位の櫛歯状工具による平行沈線。粗雑な羽状文か。50～53は羽状文が施される破片で、いずれも振りは小さいが、53はやや太目の沈線である。54は口縁部片で、無節R縄文地に山形文が施される。55～58はコの字重ね文が施される破片。56はボタン状貼付文が付く。57は波状文が施されL R単節縄文地である。59は口縁～胴上部までの部位。口縁部は外反して開くが、最大径は胴部に求められ、無文である。60～62は口縁部の破片。60は内湾



第 23 图 第 6 号住居跡出土物 1



第24図 第6号住居跡出土遺物2

して直立する形状で、RL単節縄文が巡る。61は口端に刻みが巡る。62は折り返し口縁。

6～8、64・65は弥生土器高坏。6は内外面が赤彩された口縁部片。大きく外傾し、屈曲して水平近くまで開く形状である。7は外面が赤彩された坏底部から脚部までの部位。8は坏底部から脚部底面までの部位である。64・65は内外面が赤彩された口縁部片。いずれも口端に小形で縦長の突起が付く。

9～15は弥生土器の壺または甕の底部片。11は内外面が赤彩される。

66～67は石器。66・68・69は磨石で、66は凝灰岩製、68・69は砂岩製である。66は細長い棒状のもの。68・69は扁平な形状である。67は砂岩製の叩石で、片端に敲打痕がみられる。

時期 弥生時代中期後半～末

第7表 第6号住居跡出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器 盃	(10.20)	(2.60)	-	ADBN	外面: にぶい・黄棕色 内面: にぶい・褐色	B	口縁部 43%	内外面磨粒顕著 外面赤漆有 内面整形: 稜位のヘラナダ 外面整形: 稜位のヘラナダ
2	弥生土器 甕	(19.20)	(5.00)	-	ADBN	外面: にぶい・黄棕色 内面: にぶい・黄褐色	B	口縁部 25%	内外面磨粒 内面整形: 口縁〜縁部稜位のヘラナダ 稜部斜位のヘラナダ 外面整形: 稜位のヘラナダ
3	弥生土器 甕	(13.80)	(8.00)	-	ADBN	外面: 黒褐色 内面: にぶい・黄褐色	B	口縁部 80%	内外面磨粒顕著 内面整形: 口縁部稜位のヘラナダ 縁部斜位のハケメ 稜位のヘラミガキ 外面整形: 口縁部斜位のハケメ
4	弥生土器 甕	(19.60)	(3.80)	-	ADBN	外面: にぶい・褐色 内面: にぶい・褐色	B	口縁部 73%	内外面磨粒顕著 内面整形: 稜位のヘラミガキ 外面整形: 稜位のヘラナダ
5	弥生土器 甕	-	(10.60)	6.20	ADBN	外面: にぶい・褐色 内面: 反黄褐色	B	底部 100%	内外面磨粒 内面整形: 稜位のヘラミガキ 外面整形: 稜位のヘラミガキ
6	弥生土器 高坪	(21.60)	(2.00)	-	BN	外面: 赤色 内面: 赤色	B	口縁部 20%以下	内外面磨粒 内面整形: 稜・斜位のヘラミガキ 外面整形: 稜位のヘラミガキ
7	弥生土器 高坪	-	(5.80)	-	BDN	外面: 灰白色 内面: 反黄褐色	B	接合部 80%	内外面磨粒顕著 外面赤漆有 外面整形: 稜位のヘラミガキ 接合部稜位のヘラミガキ
8	弥生土器 高坪	-	(6.00)	(8.40)	IK	外面: にぶい・黄棕色 内面: にぶい・黄褐色	B	頸部 20%	内外面磨粒顕著 内面整形: 縁下部稜位のナダ 外面整形: 稜位のヘラミガキ
9	弥生土器 底器	-	(2.10)	(6.20)	ADBN	外面: にぶい・黄棕色 内面: 反黄褐色	B	底部 80%	内外面磨粒 内面整形: 稜位のナダ 外面整形: 稜位のヘラナダ 縁下部縁部直成
10	弥生土器 底器	-	(1.70)	(5.80)	ADBN	外面: 黒褐色 内面: 黒褐色	A	底部 55%	内外面整形: 稜位のナダ 外面整形: 稜位のヘラナダ
11	弥生土器 底器	-	(2.80)	(7.60)	BD	外面: にぶい・赤褐色 内面: 赤灰色	B	頸下〜底部 20%	内外面磨粒顕著 内外面赤漆有
12	弥生土器 底器	-	(2.60)	(8.80)	AD	外面: 黒褐色 内面: 黒褐色	B	底部 55%	内外面磨粒 内面整形: 稜位のナダ 外面整形: 稜位のヘラナダ
13	弥生土器 底器	-	(4.30)	(8.00)	ADIK	外面: にぶい・黄棕色 内面: 褐色	A	底部 15%	内外面整形: 斜位のヘラナダ 外面整形: 縁下部稜位のヘラナダ
14	弥生土器 底器	-	(4.70)	5.50	ADBN	外面: 褐色 内面: 褐色	B	底部 100%	内外面磨粒顕著
15	弥生土器 底器	-	(5.30)	(7.90)	ADBN	外面: にぶい・黄棕色 内面: 反黄褐色	B	頸下〜底部 45%	内外面磨粒顕著
16	弥生土器 蓋	-	-	-	BI	外面: にぶい・黄棕色 内面: にぶい・黄棕色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著
17	弥生土器 蓋	-	-	-	BIK	外面: にぶい・黄棕色 内面: 反黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 外面磨粒顕著 内面整形: 稜・斜位のヘラミガキ
18	弥生土器 蓋	-	-	-	ADBN	外面: にぶい・黄棕色 内面: にぶい・黄棕色	B	頸上部片	内外面磨粒顕著
19	弥生土器 蓋	-	-	-	ADBN	外面: 明赤褐色 内面: 反黄褐色	B	頸上部片	内外面磨粒顕著
20	弥生土器 蓋	-	-	-	ADBN	外面: にぶい・黄棕色 内面: にぶい・黄棕色	B	頸上部片	内外面磨粒顕著 外面赤漆有 外面整形: 稜位のヘラミガキ
21	弥生土器 蓋	-	-	-	ADK	外面: にぶい・黄棕色 内面: にぶい・黄褐色	B	頸部片	内外面磨粒顕著
22	弥生土器 蓋	-	-	-	AK	外面: 暗灰黄色 内面: 黄灰色	B	頸上部片	外面磨粒顕著 内面整形: 稜位のハケメ
23	弥生土器 蓋	-	-	-	ADK	外面: にぶい・黄棕色 内面: にぶい・黄褐色	B	頸部片	内外面磨粒顕著
24	弥生土器 蓋	-	-	-	ADBN	外面: にぶい・黄棕色 内面: 黄灰色	B	頸上部片	内外面磨粒顕著
25	弥生土器 蓋	-	-	-	BI	外面: 反褐色 内面: 灰白色	B	頸上部片	内外面磨粒顕著 内面整形: 稜位のヘラミガキ
26	弥生土器 蓋	-	-	-	ADBI	外面: 反黄褐色 内面: 黄灰色	B	頸部片	内外面磨粒 内面整形: 稜位のヘラミガキ 外面整形: 稜位のヘラミガキ
27	弥生土器 蓋	-	-	-	AD	外面: 反黄褐色 内面: 反黄褐色	B	頸部片	内外面磨粒顕著 内面整形: 稜位のヘラミガキ
28	弥生土器 蓋	-	-	-	ADBI	外面: にぶい・黄棕色 内面: にぶい・黄棕色	B	頸上部片	内外面磨粒顕著
29	弥生土器 蓋	-	-	-	BDI	外面: にぶい・黄棕色 内面: 黄灰色	B	頸上部片	内外面磨粒 内面整形: 稜位のヘラナダ 外面整形: 稜位のヘラナダ
30	弥生土器 蓋	-	-	-	ADN	外面: にぶい・黄棕色 内面: 黄灰色	B	頸上部片	内外面磨粒 内面整形: 斜位のヘラナダ
31	弥生土器 蓋	-	-	-	ADIK	外面: 暗灰黄色 内面: 黄灰色	B	頸部片	内外面磨粒顕著
32	弥生土器 蓋	-	-	-	ADI	外面: 反黄褐色 内面: 反黄褐色	B	頸上部片	内外面磨粒顕著
33	弥生土器 蓋	-	-	-	BI	外面: 黒褐色 内面: にぶい・黄棕色	A	頸部片	内面整形: 稜位のヘラミガキ 外面整形: 斜位のハケメ後稜位のヘラミガキ



No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
34	弥生土器 甕	-	-	-	ABK	外面：黒灰色 内面：にじい・黄棕色	B	甕上部片	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面整形：縦位のヘラミガキ
35	弥生土器 甕	-	-	-	ABDM	外面：にじい・黄棕色 内面：にじい・黄棕色	B	甕上部片	内外面磨粒顯著 外面亦磨有
36	弥生土器 甕	-	-	-	BN	外面：にじい・褐色 内面：灰白色	B	甕上部片	内面磨粒顯著
37	弥生土器 甕	-	-	-	ABIN	外面：にじい・緑色 内面：にじい・黄棕色	B	甕下部片	内面磨粒 内外面亦磨有 外面整形：横・斜位のヘラミガキ 内面整形：縦位のヘラミガキ
38	弥生土器 甕	-	-	-	ABON	外面：灰黄褐色 内面：にじい・黄棕色	B	口縁部片	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面整形：縦位のヘラミガキ
39	弥生土器 甕	-	-	-	ABN	外面：黒褐色 内面：にじい・黄棕色	B	口縁部片	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面整形：縦位のハケメ後ヘラミガキ
40	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色	B	甕上部片	内外面磨粒 外面整形：縦位のヘラミガキ 外面整形：横・斜位のヘラミガキ
41	弥生土器 甕	-	-	-	ABJN	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	B	甕下部片	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面整形：縦・斜位のハケメ
42	弥生土器 甕	-	-	-	ABDN	外面：にじい・黄棕色 内面：灰黄褐色	B	甕中部片	内面磨粒 外面整形：縦位のヘラミガキ
43	弥生土器 甕	-	-	-	ABN	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色	B	甕上部片	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面整形：縦位のハケメ
44	弥生土器 甕	-	-	-	ABCD	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色	A	甕中部片	外面整形：斜位のヘラミガキ 内面整形：縦位のヘラミガキ
45	弥生土器 甕	-	-	-	AE	外面：褐色 内面：にじい・黄棕色	B	甕上部片	内外面磨粒顯著
46	弥生土器 甕	-	-	-	ABTK	外面：褐色 内面：黒褐色	A	甕上部片	内面整形：縦位のハケメ
47	弥生土器 甕	-	-	-	ABK	外面：灰黄褐色 内面：にじい・黄棕色	B	甕中部片	内外面磨粒顯著
48	弥生土器 甕	-	-	-	ABKN	外面：にじい・黄棕色 内面：褐色	B	甕中部片	内外面磨粒顯著
49	弥生土器 甕	-	-	-	ABIN	外面：黒褐色 内面：にじい・黄棕色	B	甕中部片	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面整形：斜位のハケメ
50	弥生土器 甕	-	-	-	ABJ	外面：黒褐色 内面：にじい・黄棕色	B	甕上部片	内面磨粒顯著
51	弥生土器 甕	-	-	-	N	外面：にじい・黄棕色 内面：褐色	B	甕上部片	内外面磨粒顯著 内面整形：縦位のハケメ
52	弥生土器 甕	-	-	-	ABTK	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色	B	甕中部片	内面磨粒 外面整形：縦位のヘラミガキ 外面整形：斜位のヘラミガキ
53	弥生土器 甕	-	-	-	ABDM	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色	B	甕上部片	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面整形：縦位のハケメ
54	弥生土器 甕	-	-	-	ABTK	外面：黒褐色 内面：暗褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内面整形：縦位のヘラミガキ 外面整形：縦位横位のヘラミガキ
55	弥生土器 甕	-	-	-	ABTK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	甕中部片	内外面磨粒顯著
56	弥生土器 甕	-	-	-	AE	外面：褐色 内面：黒褐色	A	甕中部片	内面整形：縦位のヘラミガキ 外面整形：縦位のハケメ
57	弥生土器 甕	-	-	-	ABJKN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	甕中部片	内外面磨粒 内面整形：縦位のヘラミガキ
58	弥生土器 甕	-	-	-	ABN	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	B	甕中部片	内外面磨粒顯著
59	弥生土器 甕	-	-	-	BN	外面：灰黄褐色 内面：にじい・黄棕色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著 内面整形：縦位のヘラミガキ 外面整形：縦位のハケメ
60	弥生土器 甕	-	-	-	ABTK	外面：暗褐色 内面：暗褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 外面整形：縦位のヘラミガキ 外面整形：縦位のヘラミガキ
61	弥生土器 甕	-	-	-	ABK	外面：黒褐色 内面：にじい・黄棕色	B	口縁部片	内面磨粒顯著 外面磨粒 外面整形：縦位のヘラミガキ
62	弥生土器 甕	-	-	-	ABK	外面：にじい・黄棕色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著
63	弥生土器 甕	-	-	-	ABH	外面：にじい・黄棕色 内面：灰黄褐色	B	甕上部片	内外面磨粒 胎土式 内面整形：縦位のヘラミガキ
64	弥生土器 高坏	-	-	-	ABEJ	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒 内外面亦磨有 外面整形：縦位のヘラミガキ後横位のヘラミガキ 外面整形：縦位のヘラミガキ後横位のヘラミガキ
65	弥生土器 高坏	-	-	-	ABJ	外面：赤色 内面：赤色	B	口縁部片	内外面磨粒顯著 内外面亦磨有 内面整形：口縁部に横位。以下は縦位のヘラミガキ 外面整形：縦位のヘラミガキ
66	礫石	最大長 8.4	最大幅 1.3	最大厚 1.5	重さ 19 g	完形 扇状岩製			
67	礫石	最大長 12.4	最大幅 2.9	最大厚 3.0	重さ 163 g	完形 砂岩製			
68	礫石	最大長 6.95	最大幅 0.9	最大厚 1.4	重さ 85 g	完形 砂岩製			
69	礫石	最大長 5.8	最大幅 0.9	最大厚 1.2	重さ 41 g	完形 砂岩製			

## 2 溝跡

### 第1号溝跡(第25図)

**位置** 60・61 - 139・140 グリッドに位置する。

**規模** 検出範囲で長さ4.6 m、幅1.7 mから2.8 m、確認面からの深さ24 cmを測る。平面形は、南側が不定形で、中ほどでくびれる。断面は逆台形状を呈し、主軸の方位はN-66° - Wを示す。

**概要** 北西から南東方向に流れる幅広の溝である。深さが一定せず、最深部は第6号住居跡付近である。東は第6号住居跡、西は第5号住居跡を切る。延長は西が調査区内で立ち上がり、東は調査区外となり不明である。覆土は単層であったが、埋没状況は不明である。遺物は第5号住居跡、第6号住居跡からの流れ込みとみられる。

**重複** 第5号住居跡、第6号住居跡と重複し、本遺構が新しい。

**遺物(第26図、第8表)** 弥生土器壺、甕、高坏、磨石、石錘等を検出した。

1は高坏の脚台部片で、外面と坏部内面に赤彩がみられる。2は壺または甕の底部片。

3～7は壺。3は口縁部片で、口端に縄文が施され、口縁部に山形文が巡る。4～7は胴部片。4は4条の沈線の下に、LR単節縄文が施される。5はやや太い沈線の下にRL単節縄文が施される。6は斜位の平行沈線が4条施文される。7は半円形状の刺突列が巡る。

8～16は弥生土器甕。8は口縁部片で、口端はLR単節縄文が施され、口縁部は5本一単位の波状文が巡る。9～11は胴部片で羽状文が施される。9・11は横位、10は縦位である。12・13はコの字状文が施される胴部片。14は口縁部片で口端と口縁部にRL単節縄文が施される。15は5本一単位の簾状文が付される頸部片。16は無文の胴部片である。

17・18は石器。17は磨石、18は石錘で、表裏

に溝状の窪みがみられる。

**時期** 時期不明

### 第2号溝跡(第25図)

**位置** 62 - 139 グリッドに位置する。

**規模** 検出範囲で長さ4.6 m、幅0.4 m、確認面からの深さ10 cmを測る。断面は箱型を呈し、主軸の方位はN-75° - Wを示す。

**概要** 東西方向に流れる底が浅く幅が狭い溝である。東は第3号住居跡を切るが、延長は不明である。覆土は単層であったが、埋没状況は不明である。遺物は検出されなかった。

**重複** 第3号住居跡と重複し、本遺構が新しい。

**時期** 時期不明

### 第3号溝跡(第25図)

**位置** 62 - 139・140 グリッドに位置する。

**規模** 検出範囲で長さ4.4 m、幅0.4 m、確認面からの深さ7 cmを測る。断面は逆台形状を呈する。主軸の方位は、北側がN-26° - Eからゆるやかに曲り南側がN-5° - Eを示す。

**概要** 南北方向に流れる底が浅い溝である。調査区内で立ち上がるため延長は不明である。覆土は単層であったが、埋没状況は不明である。第5～7号溝と主軸が概ね一致するが、用途は特定できなかった。

**重複** P10と重複し、本遺構が新しい。遺物は検出されなかった。

**時期** 時期不明

### 第4号溝跡(第25図)

**位置** 62 - 140・141 グリッドに位置する。

**規模** 検出範囲で長さ1.0 m、幅0.25 m、確認面からの深さ9 cmを測る。断面はU字形状を呈す



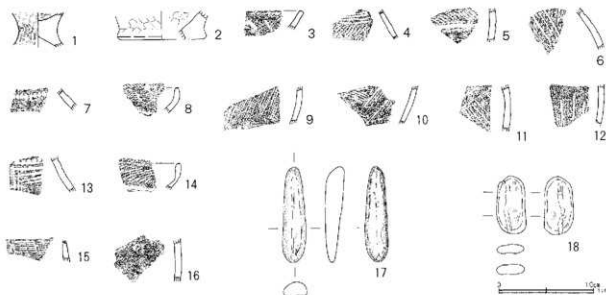
る。主軸の方位はN-65° - Eを示す。

**概要** 南東から北西方向に流れる底が浅い溝である。延長は調査区内で立ち上がるため不明である。覆土は単層であったが、埋没状況は不明である。

**重複** 第4号住居跡、第5号溝跡、第8号土坑と

重複する。第4号住居跡、第8号土坑より本遺構が新しい。第5号溝跡との切り合いは覆土に差がなく判断が付かなかつたため、同時期の可能性がある。遺物は検出されなかつた。

**時期** 時期不明



第26図 第1号溝跡出土遺物

第8表 第1号溝跡出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器 高坪	-	3.60	-	AKN	外面：赤色 内面：明赤褐色	A	接合部 90%	内外面赤銅有 内面整形：ヘラとギキ 外面整形：縦位のヘラとギキ
2	弥生土器 底部	-	3.00	3.80	AKKN	外面：灰黄色 内面：暗灰黄色	B	底部 20%	内外面赤銅 外面整形：縦位のヘラナゲ 脚下部指頭工痕
3	弥生土器 底	-	-	-	AKN	外面：じぶい・黄褐色 内面：じぶい・黄褐色	B	口縁部片	内外面赤銅顯著
4	弥生土器 底	-	-	-	AKK	外面：じぶい・黄褐色 内面：暗灰黄色	B	胴中部片	内外面赤銅顯著
5	弥生土器 底	-	-	-	AKKN	外面：灰黄色 内面：黒褐色	B	胴中部片	内外面赤銅 外面整形：縦位のヘラナゲ
6	弥生土器 底	-	-	-	B	外面：灰黄色 内面：灰白色	B	胴上部片	内外面赤銅 内面整形：斜位のヘラナゲ 外面整形：斜位のヘラナゲ
7	弥生土器 底	-	-	-	AI	外面：灰白色 内面：灰白色	B	胴中部片	内外面赤銅顯著
8	弥生土器 底	-	-	-	KN	外面：黒褐色 内面：黒色	A	口縁部片	外面整形：縦位のヘラとギキ 外面整形：縦位のヘラとギキ
9	弥生土器 底	-	-	-	AKKN	外面：黒褐色 内面：灰黄色	B	胴下部片	内外面赤銅 内面整形：斜位のヘラナゲ 外面整形：斜位のヘラナゲ
10	弥生土器 底	-	-	-	BN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴下部片	内外面赤銅顯著 外面赤銅 外面整形：縦位のヘラナゲ
11	弥生土器 底	-	-	-	AKKN	外面：灰白色 内面：灰黄色	B	胴中部片	内外面赤銅顯著
12	弥生土器 底	-	-	-	AKKN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面赤銅 外面整形：縦位のヘラナゲ 外面整形：斜位のヘラとギキ後縦位のヘラとギキ
13	弥生土器 底	-	-	-	AK	外面：灰黄色 内面：灰黄色	B	胴上部片	内外面赤銅顯著
14	弥生土器 底	-	-	-	BN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	口縁部片	内面整形：縦位のヘラナゲ 外面整形：縦位のヘラナゲ
15	弥生土器 底	-	-	-	AK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴部片	内外面赤銅顯著
16	弥生土器 底	-	-	-	AKKK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴中部片	内外面赤銅
17	磨石	最大長 10.1	最大幅 2.4	最大厚 1.5	重さ 40 g	完形 砂粒状			
18	石鏝	最大長 6.1	最大幅 3.0	最大厚 1.1	重さ 25 g	ほぼ完形 炭山砂粒			

#### 第5号溝跡(第25図)

位置 62-140・141グリッドに位置する。

規模 検出範囲で長さ2.2m、幅0.15m、確認面からの深さ9cmを測る。断面は逆台形状を呈する。主軸の方位はN-2°-Eを示す。

概要 南北方向に流れる底が浅く幅の狭い溝である。延長は南側が調査区外、北側は調査区内で立ち上がり不明である。覆土は単層だが、埋没状況は不明。第3・6・7号溝と主軸が一致するが、用途は特定できない。遺物は検出されなかった。

重複 第4号住居跡、第4号溝跡と重複する。第4号住居跡より本遺構が新しい。第4号溝跡との切り合いは覆土に差がなく判断が付かなかったため、同時期の可能性がある。

時期 時期不明

#### 第6号溝跡(第25図)

位置 62-140グリッドに位置する。

規模 検出範囲で長さ2.7m、幅0.2m、確認面からの深さ4cmを測る。断面は逆台形状を呈する。主軸の方位はN-7°-Eを示す。

概要 南北方向に流れる底が浅く幅の狭い溝である。延長は調査区内で立ち上がるため不明である。覆土は単層であったが、埋没状況は不明である。第3・5・7号溝と主軸が概ね一致するが、用途は特定できなかった。遺物は検出されなかった。

重複 P9と重複するが、切り合いは覆土に差がなく判断が付かなかった。

時期 時期不明

#### 第7号溝跡(第25図)

位置 62-140グリッドに位置する。

規模 検出範囲で長さ2.1m、幅0.2m、確認面からの深さ10cmを測る。断面は箱型を呈する。主軸の方位はN-10°-Eを示す。

概要 南北方向に流れる底が浅く幅の狭い溝であ

る。延長は調査区内で立ち上がり不明である。覆土は単層だが、埋没状況は不明。第3・5・6号溝と主軸が一致するが、用途は特定できなかった。

重複 第5号住居跡、第8号溝跡と重複する。第5号住居跡より本遺構が新しい。第8号溝跡とは覆土に差がなく判断が付かなかったため、同時期の可能性がある。遺物は検出されなかった。

時期 時期不明

#### 第8号溝跡(第25図)

位置 62-140グリッドに位置する。

規模 検出範囲で長さ1.1m、幅0.1m、確認面からの深さ9cmを測る。断面は箱型を呈する。主軸の方位はN-30°-Wを示す。

概要 南北方向に流れる底が浅く幅の狭い溝である。延長は調査区内で立ち上がるため不明である。覆土は単層であったが、埋没状況は不明である。遺物は検出されなかった。

重複 第7号溝跡と重複するが、切り合いは覆土に差がなく判断が付かなかったため、同時期の可能性がある。

時期 時期不明

#### 第9号溝跡(第25図)

位置 62-140グリッドに位置する。

規模 検出範囲で長さ2.4m、幅0.2m、確認面からの深さ16cmを測る。断面はU字形状を呈する。主軸の方位は南からN-10°-Eで北上し、N-65°-Wに屈曲する。

概要 南北方向から1.3mで北西から南西方向に屈曲する溝であり幅は狭い。延長は調査区内で立ち上がるため不明である。覆土は単層であったが、埋没状況は不明である。遺物は検出されなかった。

重複 第4号住居跡、第5号溝跡と重複する。第4・5号住居跡より本遺構が新しい。

時期 時期不明

### 3 土坑

#### 第1号土坑 (第27図)

位置 60・61 - 139 グリッドに位置する。

規模 検出範囲で長軸 1.97 m、短軸 1.08 m、確認面からの深さ 0.46 m を測る。平面形は楕円形を呈する。

概要 北側が調査区外である。底面の西側に深さ 0.13 m のビット状の落ち込みがある。覆土は人為的な埋戻しと考えられる。遺物は検出されなかった。

時期 時期不明

#### 第2号土坑 (第27図)

位置 61 - 139 グリッドに位置する。

規模 検出範囲で長軸 0.55 m、短軸 0.45 m、確認面からの深さ 0.11 m を測る。平面形は円形。

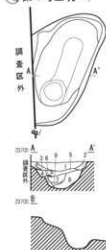
概要 壁面は鋭角に立ちあがり、床面は平坦である。覆土は自然埋没と思われる。遺物は検出されなかった。

時期 時期不明

#### 第3号土坑 (第27図)

位置 61 - 140 グリッドに位置する。

#### 第1号土坑



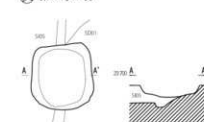
- 第1号土坑 土層説明
1. SV5/1 灰色粘土 礫化跡 同化物 埴土層
  2. SV3/1 赤-黄粘土 礫化跡 同化物少量
  3. SV2/1 赤粘土 礫化跡 同化物少量
  4. SV1/1 灰色粘土 礫化跡 同化物少量 埴土層
  5. 100/0/0 腐植粘土 礫化跡 同化物少量
  6. 2. SV1/1 灰色粘土 礫化跡 同化物少量
  7. 2. SV1/1 灰色粘土 礫化跡 同化物
  8. 7. SV1/1 灰色粘土 礫化跡 同化物少量
  9. SV1/1 灰色粘土 礫化跡 同化物少量

#### 第2号土坑

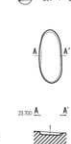


- 第2号土坑 土層説明
1. 2. SV1/1 灰色粘土 礫化跡 同化物
  2. SV1/1 灰色粘土 礫化跡

#### 第3号土坑

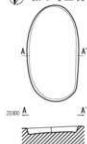


#### 第4号土坑



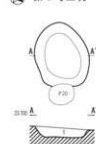
- 第4号土坑 土層説明
1. 2. SV1/1 灰色粘土 礫化跡 同化物少量

#### 第5号土坑



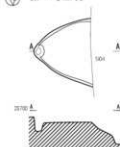
- 第5号土坑 土層説明
1. 2. SV1/1 灰色粘土 礫化跡 同化物少量

#### 第6号土坑

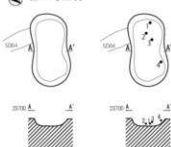


- 第6号土坑 土層説明
1. 2. SV1/1 灰色粘土 礫化跡 同化物

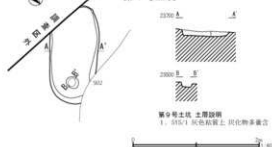
#### 第7号土坑



#### 第8号土坑



#### 第9号土坑



- 第9号土坑 土層説明
1. SV1/1 灰色粘土 礫化跡少量

第27図 第1～9号土坑

**規模** 長軸 0.55 m、短軸 0.45 m、確認面からの深さ 0.11 m を測る。平面形は円形を呈する。

**概要** 壁面はやや開いて立ちあがり、床面は概ね平坦である。覆土は図示できなかつたが灰色粘質土である。

**重複** 第 5 号住居跡、第 1 号溝跡と重複し、本遺構が新しい。遺物は検出されなかつた。

**時期** 時期不明

#### 第 4 号土坑 (第 27 図)

**位置** 60 - 140 グリッドに位置する。

**規模** 長軸 0.85 m、短軸 0.35 m、確認面からの深さ 0.04 m を測る。平面形は楕円形を呈する。

**概要** 壁面はやや開いて立ちあがり、床面は平坦である。覆土の埋没状況は不明である。遺物は検出されなかつた。

**時期** 時期不明

#### 第 5 号土坑 (第 27 図)

**位置** 60・61 - 140 グリッドに位置する。

**規模** 長軸 1.52 m、短軸 0.82 m、確認面からの深さ 0.09 m を測る。平面形は楕円形を呈する。

**概要** 壁面は鋭角に立ちあがり、床面は平坦である。覆土の埋没状況は不明である。

**遺物 (第 28 図、第 9 表)** 弥生土器甕、ミニチュア高坏等を検出した。

5-1 は甕で口縁～胴下部までの部位。最大径は口縁部にあり、口縁部は頸部で屈曲して外反し大きく開く形状。胴部は中段以下からすぼまる。頸部に塵状文が巡り、胴部に縦位の羽状文が施される。5-2 は完形の個体で、ミニチュアの高坏と判断した。5-3 は壺または甕の底部片である。5-4 は甕の口縁部片で外反して開く形状。口端に半円形状の刺突列が巡る。5-5 は甕の胴部片で、爪形状の刺突列の下に縦位の羽状文が施される。

**時期** 時期不明

#### 第 6 号土坑 (第 27 図)

**位置** 60・61 - 140・141 グリッドに位置する。

**規模** 長軸 1.03 m、短軸 0.83 m、確認面からの深さ 0.16 m を測る。平面形は楕円形を呈する。

**概要** 壁面は開いて立ちあがり、床面は平坦である。覆土の埋没状況は不明である。

**重複** P 20 と重複し、本遺構が古い。

**遺物 (第 28 図、第 9 表)** 弥生土器甕、高坏等を検出した。

6-1 は壺または甕の底部片である。6-2 は高坏の口縁部片で、内外面が赤彩され、穿孔がみられた。6-3 は甕の胴部片で、横位の羽状文が施される。

**時期** 時期不明

#### 第 7 号土坑 (第 27 図)

**位置** 62 - 140・141 グリッドに位置する。

**規模** 検出範囲で長軸 1.09 m、短軸 0.92 m、確認面からの深さ 0.11 m を測る。平面形は楕円形。

**概要** 壁面はやや開いて立ちあがり、床面は平坦である。北側に幅 15 cm、深さ 14 cm のビット状の落ち込みが確認された。覆土は図示できなかつたが、黄灰色粘質土で埋没状況は不明である。

**重複** 第 4 号住居跡と重複し、本遺構が古い。

**遺物 (第 28 図、第 9 表)** 弥生土器ミニチュア高坏、壺、甕等を検出した。

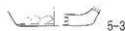
7-1 はミニチュアの高坏である。7-2 は甕の底部片。7-3 は壺の胴上部片で、複数巡る波状文の間を L R 単節縄文地と無文が交互に施文される。7-4 は甕の胴部片で、斜格子文が施される。7-5 は壺の胴部片か。外面が赤彩され、横位の沈線の下に L R 単節縄文が施される。

**時期** 時期不明

#### 第 8 号土坑 (第 27 図)

**位置** 62・63 - 140・141 グリッドに位置する。

### 第5号土坑



### 第6号土坑



### 第7号土坑



### 第8号土坑



第28図 第5～8号土坑出土遺物

**規模** 長軸1.15 m、短軸0.61 m、確認面からの深さ0.11 mを測る。平面形は楕円形を呈する。

**概要** 壁面は緩やかに開いて立ちあがり、床面は平坦である。覆土は図示できなかつたが、黄灰色粘質土で埋没状況は不明である。

**重複** 第4号溝跡と重複し、本遺構が古い。

**遺物** (第28図、第9表) 弥生土器壺、甕、高坏等を検出した。

8-1・2は壺。8-1は口縁部片で、口端に突起が付され、口縁部はLR単節縄文地に山形文とみられる沈線が巡る。8-2は頸部片で、内面が赤彩され、外面の施文は横位の沈線間に縄文が充填される。8-3は甕の口縁部片。口縁部は頸部で屈曲して直立する形状。胴部に櫛歯状工具による斜位の施文がなされる。8-4は甕の胴部片で縦位の羽状文が施される。8-5は高坏の口縁部片で外傾して

開く形状。外面が赤彩される。

**時期** 時期不明

### 第9号土坑 (第27図)

**位置** 63-140・141 グリッドに位置する。

**規模** 検出範囲で長軸1.54 m、短軸0.78 m、確認面からの深さ0.08 mを測る。平面形は楕円形を呈する。

**概要** 南東側は調査区外である。壁面は開いて立ちあがり、床面は平坦である。北側に幅15 cm、深さ7 cmのビット状の落ち込みが確認された。覆土の埋没状況は不明である。

**重複** 第2号住居跡と重複し、本遺構が新しい。遺物は検出されなかつた。

**時期** 時期不明



第9表 第5～8号土坑出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
5-1	弥生土器 甕	(26.00)	(19.60)	-	MRX	外面：にじみ黄褐色 内面：灰黄褐色	B	口～胴部 20%	内外面磨粒顕著 外面彫形：縦位の斜位のヘラミガキ
5-2	弥生土器 高坏 (ミニチュア)	(7.60)	5.10	(6.00)	MRNS	外面：黄褐色 内面：黄褐色	B	30%	内外面磨粒顕著 外面彫形：縦位のヘラミガキ 胴部縦位のヘラミガキ
5-3	弥生土器 底器	-	(2.00)	(3.20)	RIX	外面：にじみ黄褐色 内面：にじみ黄褐色	B	底器 40%	内外面磨粒顕著 外面彫形：縦位のナゲ 外面彫形：縦位のヘラミガキ
5-4	弥生土器 甕	-	-	-	MRK	外面：にじみ黄褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内面磨粒 外面磨粒顕著 外面彫形：縦位のヘラミガキ後機位のヘラミガキ
5-5	弥生土器 甕	-	-	-	MR	外面：にじみ黄褐色 内面：黒褐色	B	胴中部片	内外面磨粒顕著
6-1	弥生土器 底器	-	(2.20)	(6.00)	MRXN	外面：明赤褐色 内面：黒灰色	B	底器 25%	内外面磨粒顕著
6-2	弥生土器 高坏	-	-	-	MRK	外面：黄褐色 内面：黄褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著 内外面赤褐色 外面彫形：縦位のヘラミガキ
6-3	弥生土器 甕	-	-	-	MRK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴中部片	外面磨粒 外面彫形：縦位のヘラミガキ
7-1	弥生土器 高坏 (ミニチュア)	(2.20)	(2.60)	-	MR	外面：黄褐色 内面：黄褐色	A	胴中部 40%	口フタによる成形 外面彫形：縦位のヘラミガキ
7-2	弥生土器 底器	-	(2.35)	(3.40)	MRNS	外面：にじみ黄褐色 内面：にじみ黄褐色	B	底器 25%	内外面磨粒顕著
7-3	弥生土器 甕	-	-	-	MRK	外面：にじみ黄褐色 内面：黒褐色	B	胴中部片	内外面磨粒顕著
7-4	弥生土器 甕	-	-	-	MRN	外面：灰黄褐色 内面：にじみ黄褐色	B	胴中部片	内外面磨粒 外面彫形：斜位のヘラミガキ
7-5	弥生土器 甕	-	-	-	MR	外面：にじみ黄褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面磨粒顕著 外面赤褐色
8-1	弥生土器 甕	-	-	-	MRJ	外面：灰黄褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著
8-2	弥生土器 甕	-	-	-	MRNS	外面：灰黄色 内面：灰黄色	B	胴部片	内外面磨粒顕著 内面赤褐色
8-3	弥生土器 甕	-	-	-	MRFX	外面：灰黄褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著
8-4	弥生土器 甕	-	-	-	MRK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴中部片	内面磨粒 外面彫形：縦位のヘラミガキ 外面彫形：縦位のヘラミガキ
8-5	弥生土器 高坏	-	-	-	MRFXN	外面：赤色 内面：灰黄色	B	口縁部片	内外面磨粒顕著 外面赤褐色 外面彫形：縦位のヘラミガキ

## 4 土器棺墓

### 第1号土器棺墓 (第29図)

位置 61-140 グリッドに位置する。

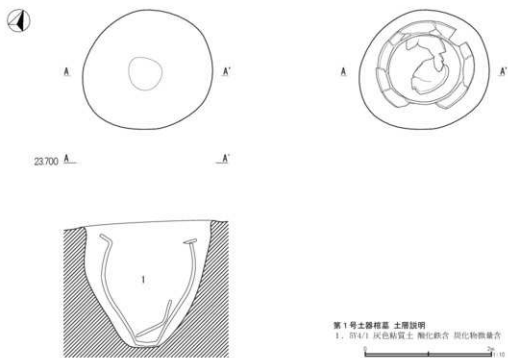
規模 長軸 0.35 m、短軸 0.31 m、確認面からの深さ 0.33 mを測る。平面形は円形を呈する。

概要 掘方は棺身の甕の外形に合わせた形状であり、壁面はやや開いて立ちあがる。床面は幅が狭く平坦である。覆土は人為的な埋没と考えられる。土器棺は墓壇中央に設置され、正位に埋設されている。棺身・棺蓋ともに弥生土器甕が用いられている。棺蓋は胴部中位以上を打ち欠いた甕を、棺身に逆に被せる形で設置されたものとみられる。検出状況は墓壇覆土の上位及び棺身内より棺蓋の破片が確認された。棺身内部には土が入り込んでおり、精査したが骨片等は検出されなかった。

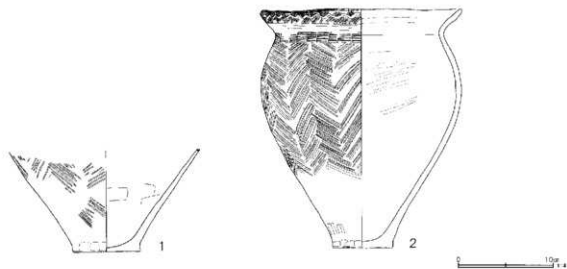
遺物 (第30図、第10表) 弥生土器甕を検出した。

1・2は弥生土器甕であり、1は棺蓋、2は棺身として使用されている。1は胴部中段以上が打ち欠かれた甕である。形状は底部から外傾して胴部中段へと開く。文様は櫛歯状工具による縦位の羽状文が施される。2は完形の甕である。口縁部は頸部から屈曲して開き、胴部は中段上位が球形に膨らみ、なだらかに底部へと続く形状である。最大径は胴部中段上位で測るが、口径とほぼ変わらない。文様について、口縁部はLR単節縄文地に波状沈線が一条巡る。頸部は5本一単位の櫛歯状工具による糜状文が巡る。胴部は上位から中位まで櫛歯状工具による縦位の羽状文が精緻に施されている。

時期 弥生時代中期後半



第29図 第1号土器棺墓



第30図 第1号土器棺墓出土遺物

第10表 第1号土器棺墓出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器 甕	-	(10.80)	(7.20)	AKS	外面：にじい・橙色 内面：にじい・黄棕色	B	底部 100%	内外面磨粒顕著 土器粒差 内面整形：横位のナゾ 外面整形：胴下部横位のハケメ後ヘラミガキ 胴下部横位のナゾ
2	弥生土器 甕	(21.80)	25.30	6.40	AKS	外面：黒褐色 内面：黒棕色	A	ほぼ完形	土器粒差 内面整形：口縁～胴部横位のヘラナゾ 胴部横位のヘラミガキ 外面整形：胴部横位のナゾ 胴下部無文部横位のヘラミガキ

## 5 ピット (第31図、第11表、第32図、第12表)

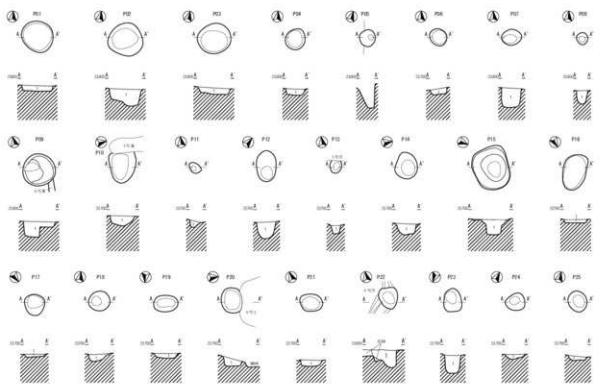
ピットは合計 25 基を検出し、第 11 図ピット計測表にまとめた。ここでは出土遺物について記載する。

第 1 号ピットは弥生土器高坏、壺、甕を検出した。01-1 は外面が赤彩された高坏脚部。01-2 は壺の胴上部片。外面にやや太い波状沈線が巡り、沈線間に L R 単筋縄文、無文の順に施文される。01-3 は甕の胴部片で縦位の羽状文が施される。

第 11 号ピットは弥生土器甕を検出した。11-1 は頭～胴上部片で頭部に簾状文が巡り、胴部にコの字重ね文が施される。

第 12 号ピットは弥生土器甕を検出した。12-1 は頭～胴上部片で頭部に簾状文が巡り、胴部に斜格子文が施される。

第 20 号ピットは弥生土器底部片を検出した。20-1 は壺または甕の底部片である。



P01 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P02 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P03 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P04 土器説明  
1. 03(1) 灰色粘質土、酸化跡含 同化物含

P06 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P07 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含

P08 土器説明  
1. 2.02(1) 黒色粘質土、酸化跡含

P09 土器説明  
1. 03(1) 灰色粘質土、酸化跡含

P10 土器説明  
1. 2.03(1) 黄褐色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P11 土器説明  
1. 2.03(1) 黄褐色粘質土、酸化跡含 同化物含

P12 土器説明  
1. 2.02(1) 黄色粘質土、酸化跡含 同化物含

P13 土器説明  
1. 2.02(1) 黄色粘質土、酸化跡含 同化物含

P14 土器説明  
1. 2.03(1) 黄褐色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P15 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含

P16 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P17 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P18 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P19 土器説明  
1. 2.03(1) 黄褐色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P20 土器説明  
1. 2.03(1) 黄褐色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P21 土器説明  
1. 03(1) 黄褐色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P22 土器説明  
1. N/1 可成色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P23 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P24 土器説明  
1. 2.03(1) 黄灰色粘質土、酸化跡含 同化物残量含

P25 土器説明  
1. 2.02(1) 黄色粘質土、酸化跡含 同化物多量含

第 31 図 ピット

第11表 ビット計測表

番号	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	備考
P01	02-129	円形	53	47	8	弥生土器蓋、甕、高坏	弥生時代中期後半以前
P02	02-129	円形	56	53	27	-	-
P03	02-129	円形	53	49	6	-	-
P04	02-129	円形	33	31	9	-	-
P05	02-140	円形	27	25	38	-	第2号住居跡より新しい
P06	02-140	円形	29	25	10	-	-
P07	02-129	楕円形	32	25	31	-	-
P08	02-129	円形	19	18	21	-	-
P09	02-140	円形	52	52	25	-	第6号遺跡と重複し、新旧関係不明
P10	02-140	楕円形	48	43	16	-	第3号遺跡より古い
P11	02-140	楕円形	20	15	10	弥生土器片	-
P12	01-140	楕円形	51	32	27	弥生土器片	-
P13	01-140	円形	20	19	15	-	-
P14	01-140	楕円形	43	37	18	-	-
P15	01-100+141	楕円方形	68	55	24	-	-
P16	01-141	楕円形	56	36	5	-	-
P17	01-141	円形	35	32	5	-	-
P18	01-100+141	円形	54	31	12	-	-
P19	01-100+141	楕円形	39	25	8	-	-
P20	00-141	円形	43	33	18	弥生土器片	第6号土坑より新しい
P21	00-141	楕円形	36	27	12	-	-
P22	02-140	楕円形	34	30	37	-	第4号住居跡より新しい
P23	01-140	楕円形	30	28	38	-	-
P24	01-140	円形	31	28	8	-	-
P25	01-140	円形	32	28	9	-	-



第32図 ビット出土遺物

第12表 ビット出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	整形の特徴・備考
01-1	弥生土器 高坏	-	(4.73)	0.00	CK	外面：灰白色 内面：黒色	B	頸部 17% 以下	内外面磨削 外面に赤 内面整形：横位のヘラナゲ後継位のヘラミダギ 外面整形：横位のヘラナゲ後継位のヘラミダギ
01-2	弥生土器 甕	-	-	-	AK	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	B	胴上部片	内外面磨削断面
01-3	弥生土器 甕	-	-	-	AKX	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色	B	胴中部片	内外面磨削断面
11-1	弥生土器 甕	-	-	-	AH	外面：黒褐色 内面：灰黄褐色	A	胴～胴上部片	内面整形：横位のヘラミダギ 外面整形：縦位のヘラナゲ 胴部横位のハケメ
12-1	弥生土器 甕	-	-	-	AHII	外面：黒灰色 内面：黒灰色	A	胴～胴上部片	内面整形：横位のハケメ 外面整形：横位のハケメ
20-1	弥生土器 甕部	-	(2.40)	0.00	AIXX	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい棕色	B	底部 10%	内外面磨削 内面整形：横位のナゲ 外面整形：横位のヘラナゲ 胴下部部断面

## 6 遺構外出土遺物 (第33図、第13表)

遺構外出土遺物は、弥生土器のみ検出され、器種をみると壺、甕、高坏等が確認された。

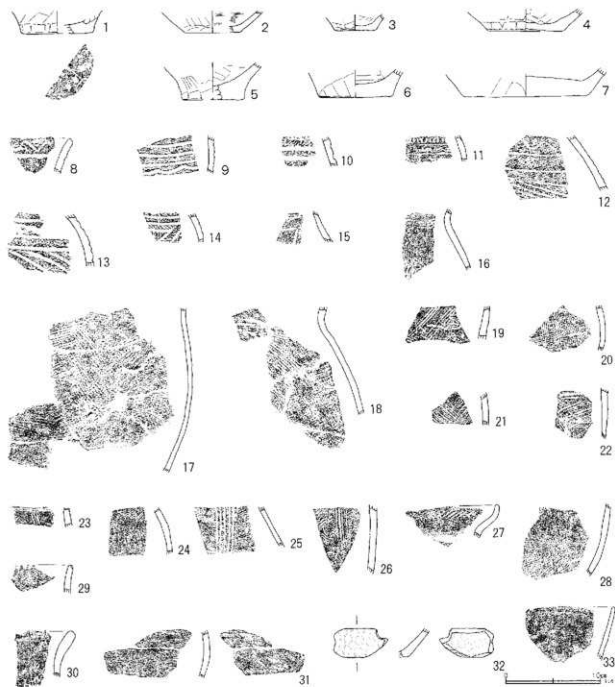
1～7は壺または甕の底部片。1は底部外面に木葉痕がみられた。2は内面に、3は外面に赤彩が残る。

8～16は壺。8は口縁部片で山形文が巡り、沈線で区画される。内面に種子圧痕がみられた。9～15は胴部片。9はやや太い横位の直線文3条の下に緩やかな弧線または波状文が巡る。10は太い直線文が巡る。11は細い複数の直線文内に爪形状の刺突列が巡り、下に波状文または山形文が巡る。12・13は複数の直線文内に、山形文が施され、下は斜位の沈線が施される。12は沈線が細く、13はやや太い。

14はR L単節縄文地に重三角文が描かれる。15は鉅齒状文か。16は頭～胴部片で、頭部に波状文が巡り、下位は無文である。

17～31は甕。17～26は頭～胴部片で櫛齒状工具による文様が施される。17～22は羽状文で、17・18・21は縦位、19・20・22は横位に施される。23は頭部に簾状文が巡り、下位は斜格子文か。24は4本1単位の振りの小さい波状文が施される。25・26はコの字重ね文で、26は振りの小さい波状文が施される。27・28は縄文が施される破片。27は口縁部片でL R単節縄文が巡る。28は胴下部片で無節L縄文を地文とする。29～31は無文の破片。29は口縁部片で口端に刻みが巡る。

32・33は高坏である。32は内外面が赤彩される。33は口縁部片で、直線的に外傾する。



第33図 遺構外出土遺物

第13表 遺構外出土遺物観察表

No.	機種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器 底器	-	(2.80)	(7.60)	DS	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	底器 47%	内外面摩耗 底器内面に本巻痕有 外面整形：斜位のヘラナゲ
2	弥生土器 底器	-	(2.20)	(5.80)	ABCDFI	外面：にぶい・黄褐色 内面：赤褐色	B	底器 10%	内外面摩耗顯著 内面赤赤有 内面整形：横位のナゲ 外面整形：斜位のヘラナゲ
3	弥生土器 底器	-	(1.70)	(4.80)	IK	外面：にぶい・褐色 内面：黒褐色	B	底器 45%	内外面摩耗 外面赤赤有 内面整形：横位のナゲ 外面整形：横位のヘラナゲ
4	弥生土器 底器	-	(2.80)	(6.80)	ABDKN	外面：灰黄褐色 内面：褐灰黄色	B	底器 100%	内外面摩耗顯著 内面整形：横位のヘラナゲ 外面整形：横位のヘラナゲ
5	弥生土器 底器	-	(3.90)	(6.80)	AN	外面：褐色 内面：にぶい・褐色	B	底器 80%	内外面摩耗顯著 内面整形：横・斜位のヘラナゲ 外面整形：横位のヘラナゲ後継位のヘラミガキ
6	弥生土器 底器	-	(2.90)	(7.80)	IS	外面：褐灰色 内面：にぶい・黄褐色	B	底器 25%	内外面摩耗顯著 内面整形：横位のヘラナゲ 外面整形：横・斜位のヘラナゲ
7	弥生土器 底器	-	(3.00)	(12.20)	ABKN	外面：褐色 内面：にぶい・黄褐色	B	底器 25%	内外面摩耗顯著 内面整形：横位のヘラナゲ 外面整形：横・斜位のヘラナゲ
8	弥生土器 蓋	-	-	-	ABKN	外面：灰黄色 内面：にぶい・黄褐色	B	口縁部片	内外面摩耗顯著
9	弥生土器 蓋	-	-	-	ABDKN	外面：にぶい・黄褐色 内面：灰白色	B	胴上部片	内外面摩耗 内面整形：横位のヘラナゲ 外面整形：横位のヘラナゲ
10	弥生土器 蓋	-	-	-	IK	外面：灰白色 内面：黒褐色	B	胴部片	内外面摩耗顯著 内面整形：斜位のヘラナゲ
11	弥生土器 蓋	-	-	-	BDIM	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	B	胴上部片	内外面摩耗 内面整形：横位のヘラナゲ 外面整形：横位のヘラミガキ
12	弥生土器 蓋	-	-	-	IS	外面：黒褐色 内面：反黄褐色	B	胴上部片	内外面摩耗顯著 内面整形：横位のヘラナゲ
13	弥生土器 蓋	-	-	-	BDIM	外面：にぶい・黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴上部片	内外面摩耗顯著 内面整形：横位のヘラナゲ
14	弥生土器 蓋	-	-	-	IK	外面：にぶい・黄褐色 内面：にぶい・黄褐色	B	胴上部片	内外面摩耗 内面整形：横位のヘラナゲ
15	弥生土器 蓋	-	-	-	BM	外面：褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面摩耗 内面整形：横・斜位のヘラミガキ
16	弥生土器 蓋	-	-	-	IS	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面摩耗顯著 内面摩耗 内面整形：横・斜位のヘラミガキ
17	弥生土器 蓋	-	-	-	AN	外面：褐色 内面：にぶい・赤褐色	B	胴部片	内外面摩耗顯著
18	弥生土器 甕	-	-	-	AN	外面：黄褐色 内面：切褐色	B	胴部片	内外面摩耗顯著
19	弥生土器 甕	-	-	-	ABIN	外面：黒褐色 内面：反黄褐色	B	胴下部片	内外面摩耗 内面整形：横・斜位のヘラナゲ 外面整形：横位のヘラナゲ
20	弥生土器 甕	-	-	-	AN	外面：反黄褐色 内面：反黄褐色	B	胴中部片	内外面摩耗 内面整形：斜位のヘラナゲ 外面整形：横位のヘラナゲ
21	弥生土器 甕	-	-	-	ABDKN	外面：黒褐色 内面：にぶい・黄褐色	B	胴中部片	内外面摩耗 外面整形：斜位のヘラナゲ
22	弥生土器 甕	-	-	-	ABKN	外面：反黄褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面摩耗 内面整形：斜位のヘラナゲ 外面整形：横・斜位のヘラミガキ
23	弥生土器 甕	-	-	-	ABDI	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面摩耗 内面整形：横位のヘラナゲ 外面整形：横位のヘラナゲ
24	弥生土器 甕	-	-	-	ADKN	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	胴上部片	内外面摩耗顯著
25	弥生土器 甕	-	-	-	AIN	外面：褐灰色 内面：にぶい・黄褐色	B	胴中部片	内外面摩耗 内面整形：横位のヘラナゲ 外面整形：横位のヘラナゲ
26	弥生土器 甕	-	-	-	ABDN	外面：褐灰色 内面：にぶい・黄褐色	B	胴中部片	内外面摩耗顯著
27	弥生土器 甕	-	-	-	N	外面：にぶい・褐色 内面：赤褐色	B	口縁部片	外面摩耗 内面摩耗顯著 外面整形：横位のヘラナゲ
28	弥生土器 甕	-	-	-	AN	外面：反黄褐色 内面：にぶい・黄褐色	B	胴下部片	内外面摩耗 内面整形：横位のヘラナゲ 外面整形：横位のヘラミガキ
29	弥生土器 甕	-	-	-	AK	外面：にぶい・黄褐色 内面：にぶい・黄褐色	B	口縁部片	内外面摩耗顯著
30	弥生土器 甕	-	-	-	IK	外面：褐色 内面：褐色	B	口縁部片	内外面摩耗顯著
31	弥生土器 甕	-	-	-	AD	外面：黒褐色 内面：黒褐色	A	胴中部片	内外面摩耗 内面整形：胴上部横位のヘラミガキ 胴下部斜位のヘラミガキ 外面整形：横位のヘラミガキ後継位のヘラミガキ
32	弥生土器 高坪	-	-	-	ABKN	外面：赤色 内面：赤色	B	胴下～底部片	内外面摩耗顯著 内外面赤赤有 外面整形：横位のヘラミガキ
33	弥生土器 高坪	-	-	-	DK	外面：黒褐色 内面：黒褐色	B	口縁部片	内外面摩耗顯著 外面整形：横位のヘラミガキ後ヘラナゲ有

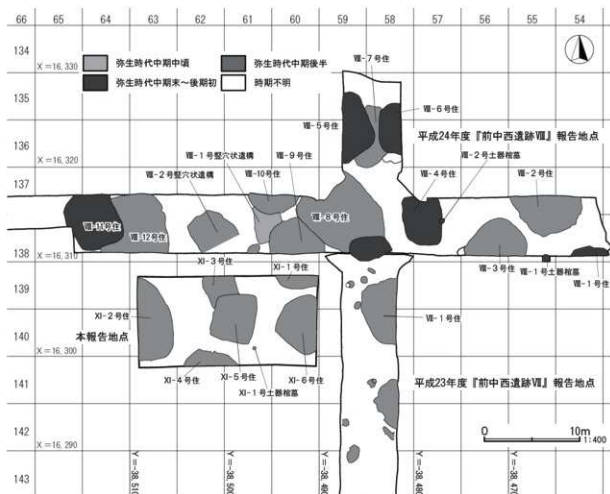
## V 調査のまとめ

今回の調査は既報告である『前中西遺跡Ⅶ』及び『前中西遺跡Ⅷ』に挟まれた場所であり、住居跡6軒、溝跡が9条、土坑9基、土器棺墓1基、ピット25基を検出した。調査面積は194.19㎡と狭い中で、住居跡6軒の検出は密集していると判断され、時期も弥生時代中期後半から後期初頭に集中する。この結果は、本調査地点が既報告で想定された当該期の集落中心であることを補強する内容といえよう。

特筆すべき新知見はないものの、第2号住居跡等の大形住居跡や、第1号土器棺墓の検出は、集落の変遷や構造を考察する上で、着実に積み上がった貴重な成果といえる。また、遺物についても完形個体が複数みつかったことは、時期決定の基礎となる土器編年を考察する上での資料として重要である。

前中西遺跡を含む熊谷市成田地区は、弥生時代中期から後期にかけての遺跡の広がりや、東日本でも屈指の範囲である。未だ不明な点が多い北関東の当該期の状況を明らかにする鍵として、本遺跡は極めて重要な遺跡といえ、調査を着実にを行い、成果を積み上げてゆくことが今後とも必要である。

まとめは、『前中西遺跡Ⅶ』において詳細に述べられており、反復を避けたい。今回の調査では、弥生時代中期後半の住居跡1軒、中期後半から末の住居跡5軒が成果として加わったことを簡単に述べ、本調査地点の時期別変遷を下図に示しまとめとする。



第34図 弥生時代遺構分布図

# 写 真 图 版





調査区全景（東から）



調査区全景（西から）

図版 2



第 1号住居跡 (東から)



第 1号住居跡遺物出土状況 1 (南から)



第 1号住居跡遺物出土状況 2 (南東から)



第 2号住居跡 (南から)



第 2号住居跡床面検出状況 (東から)



第 2号住居跡遺物出土状況 1 (東から)



第2号住居跡遺物出土状況2 (西から)



第2号住居跡遺物出土状況3 (東から)



第2号住居跡遺物出土状況4 (北から)



第2号住居跡遺物出土状況5 (北から)



第2号住居跡P6遺物出土状況 (東から)



第2号住居跡内焼夷弾検出状況 (東から)



第3号住居跡 (西から)



第3号住居跡遺物出土状況1 (東から)

図版 4



第4号住居跡 (西から)



第3号住居跡遺物出土状況 2 (南から)



第4号住居跡遺物出土状況 (北から)



第5号住居跡 (南から)



第5号住居跡遺物出土状況 (南から)



第6号住居跡 (南東から)



第6号住居跡遺物出土状況 (南西から)





第1号溝跡 (東から)



第2号溝跡 (南から)



第3・6・7・8・9号溝跡 (南から)



第4・5号溝跡 (南から)



第1号土坑 (南から)



第2号土坑 (南から)



第3号土坑 (南から)



第4号土坑 (南から)

図版6



第5号土坑 (西から)



第6号土坑 (西から)



第7号土坑 (西から)



第8号土坑遺物出土状況 (西から)



第1号土器棺墓出土状況1 (下が南)



第1号土器棺墓出土状況2 (西から)



発掘調査状況 (南東から)



調査区水没状況 (南東から)



第 7 图 1



第 7 图 3



第 7 图 4



第 7 图 2



第 7 图 5



第 7 图 6



第 7 图 7



第 7 图 8



第 7 图 11



第 7 图 12



第 7 图 13



第 7 图 14



第 7 图 15 ~ 43、第 8 图 44 ~ 46



第 8 图 47 ~ 51、第 13 图 94 ~ 99

图版 8



第 10 图 1



第 10 图 2



第 10 图 3



第 10 图 4



第 10 图 7



第 10 图 5



第 10 图 6



第 10 图 9



第 10 图 10



第 10 图 8



第 10 图 11





第 10 图 12



第 10 图 13



第 10 图 15



第 10 图 17



第 10 图 14



第 10 图 16



第 11 图 24



第 11 图 25



第 11 图 26



第 11 图 27



第 11 图 29



第 11 图 30



第 11 图 32



第 11 图 35

图版 10



第 11 图 37



第 11 图 38



第 11 图 40



第 11 图 41



第 11 图 42



第 11 图 18 ~ 23 · 28 · 44 ~ 58



第 15 图 1



第 12 图 59 ~ 77



第 15 图 2



第 15 图 4



第 15 图 5



第 15 图 6



第 15 図 7



第 15 図 8



第 15 図 12



第 15 図 17



第 16 図 42



第 20 図 2



第 15 図 3・9～11・13～16・18～37、

第 16 図 38～41・43



第 16 図 44～48、第 18 図 22～25



第 18 図 1～21

图版 12



第 20 图 1



第 20 图 17



第 20 图 27



第 20 图 4



第 20 图 6



第 20 图 3 · 13 ~ 16 · 18 ~ 26 · 28 ~ 31



第 21 图 53



第 23 图 1



第 20 图 32 ~ 45、第 21 图 46 ~ 52



第 23 图 2



第 23 图 3



第 23 図 4



第 23 図 5



第 23 図 7



第 23 図 8



第 23 図 14



第 23 図 15



第 23 図 6・16 ~ 41



第 23 図 42 ~ 46、第 24 図 47 ~ 69



第 26 図 3 ~ 18

図版 14



第 26 図 1



第 26 図 2



第 28 図 5- 1



第 28 図 5- 2



第 30 図 1



第 30 図 2



第 28 図 5- 4・5、6- 2・3、7- 1・3~5、  
8- 1~5、第 32 図 01- 1~3、11- 1、12- 1



第 34 図 8~ 33



埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集

前中西遺跡XI

平成28年3月31日発行

発行／埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会

印刷／朝日印刷工業株式会社